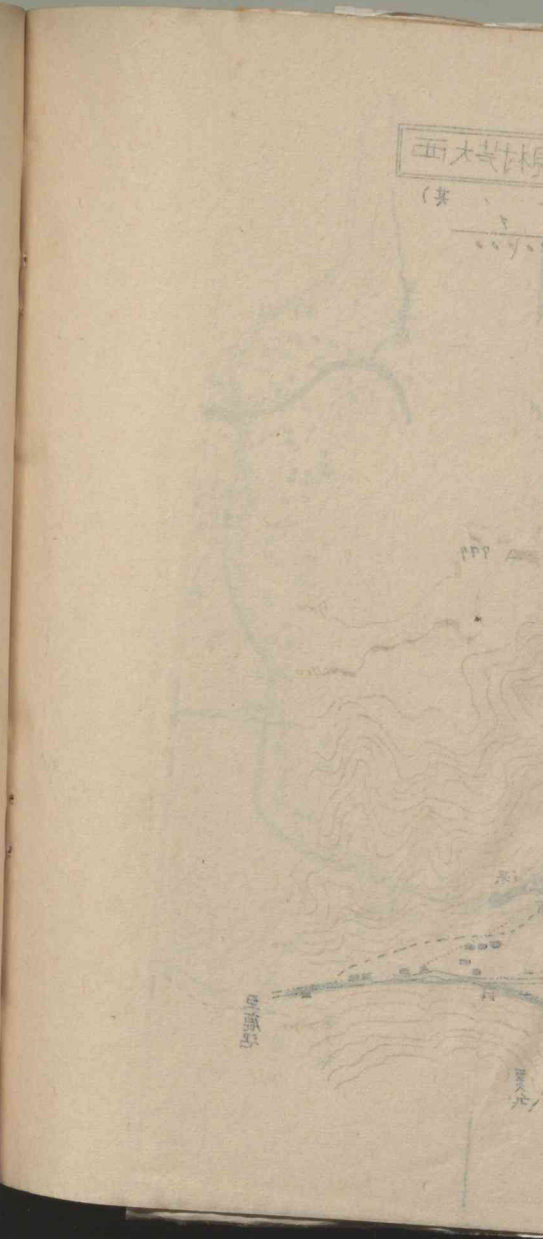
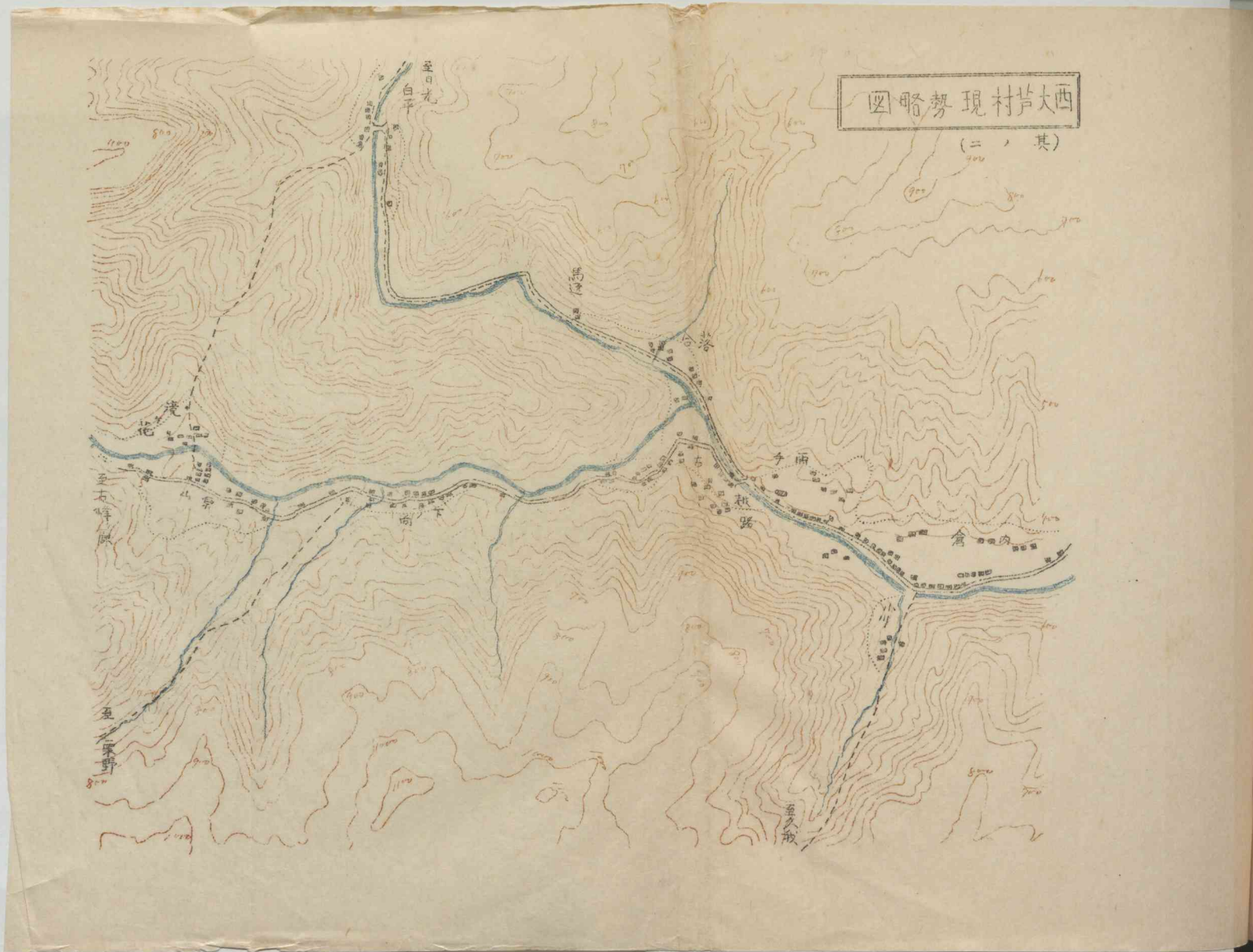
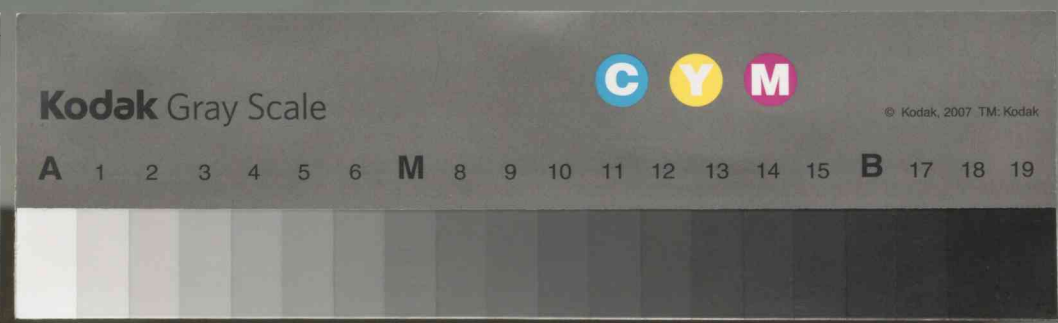


492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13

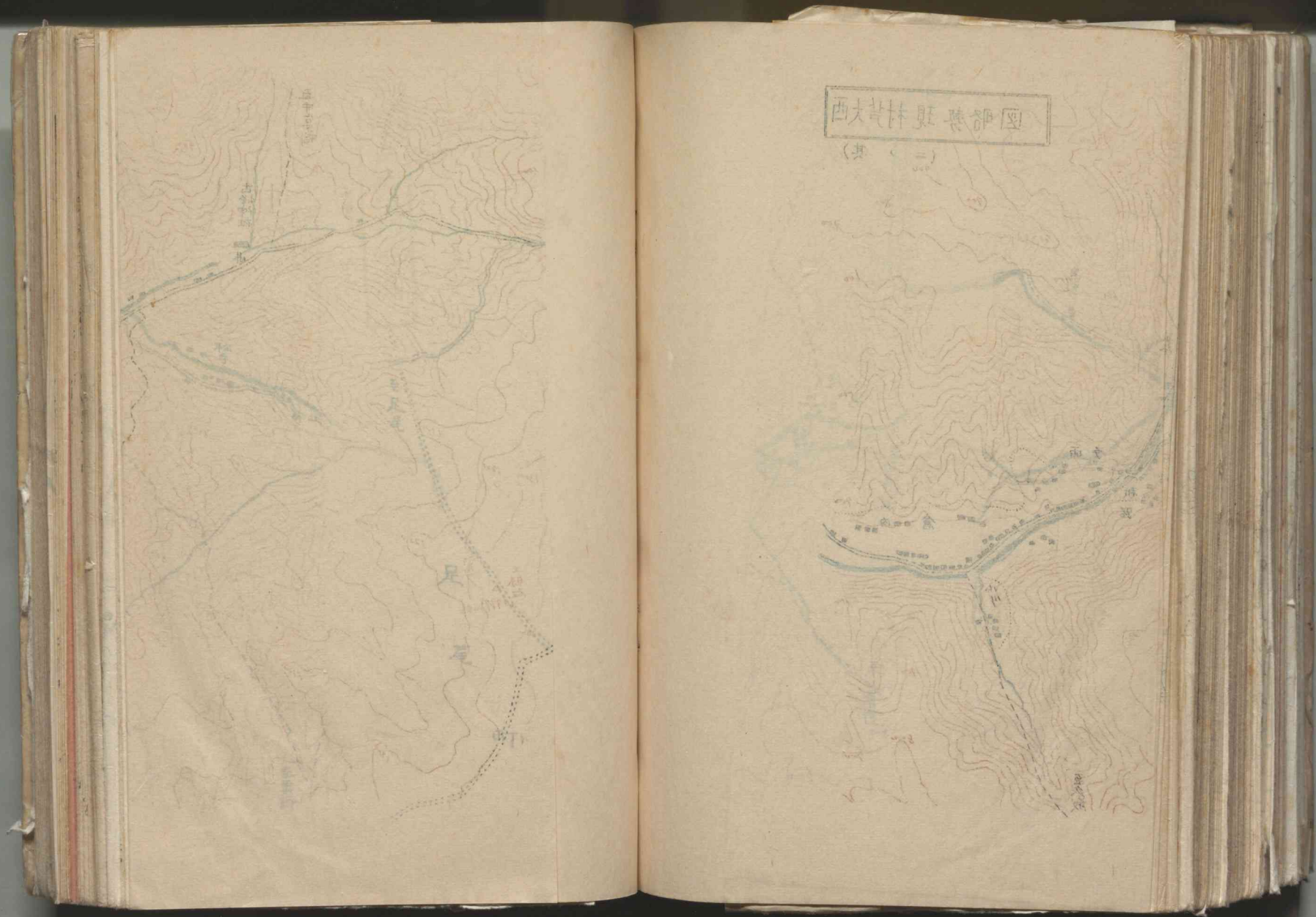
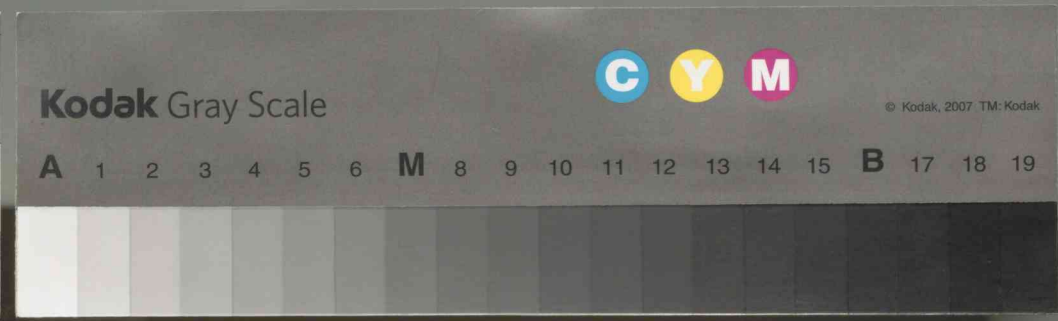
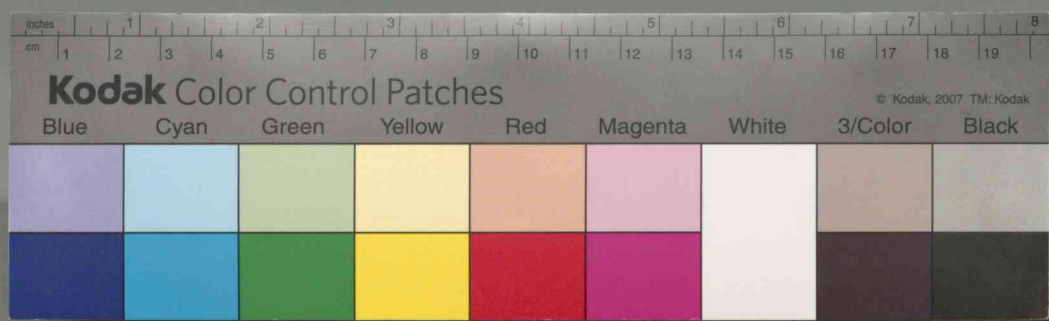




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13

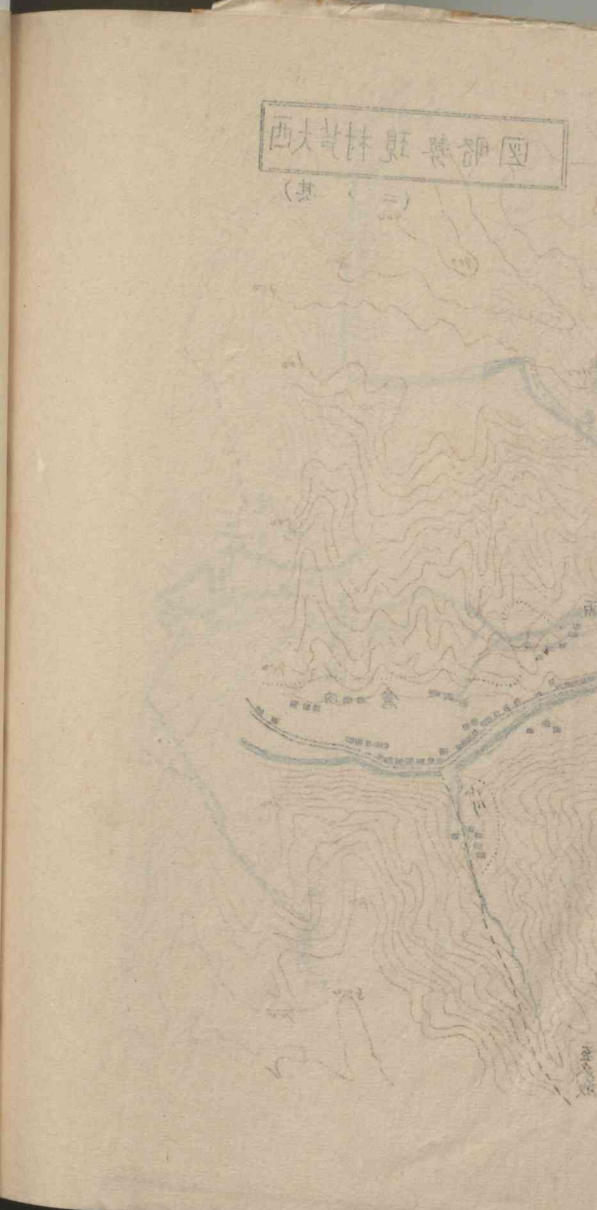
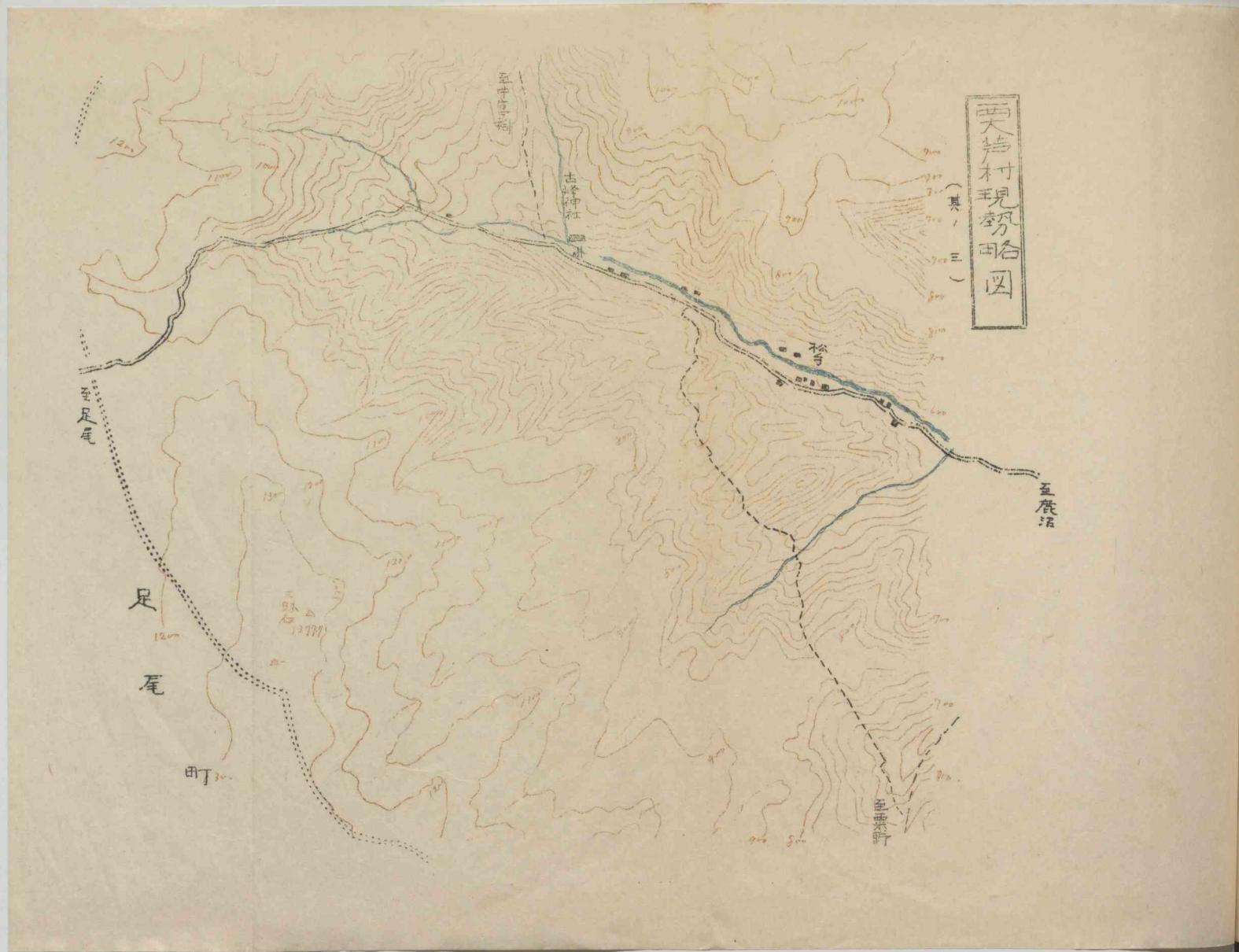
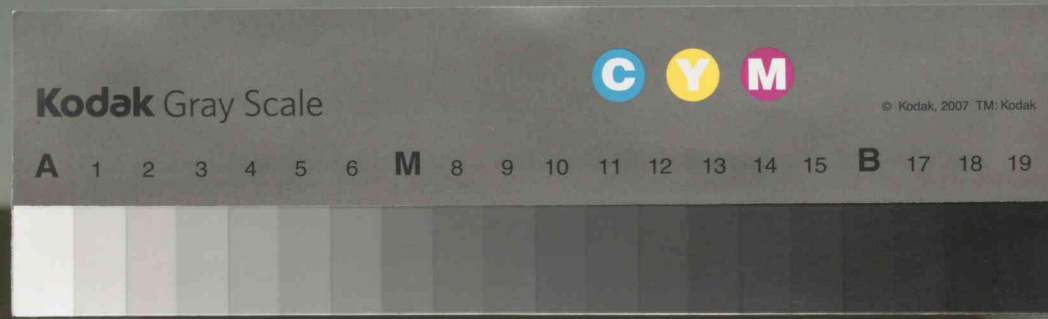


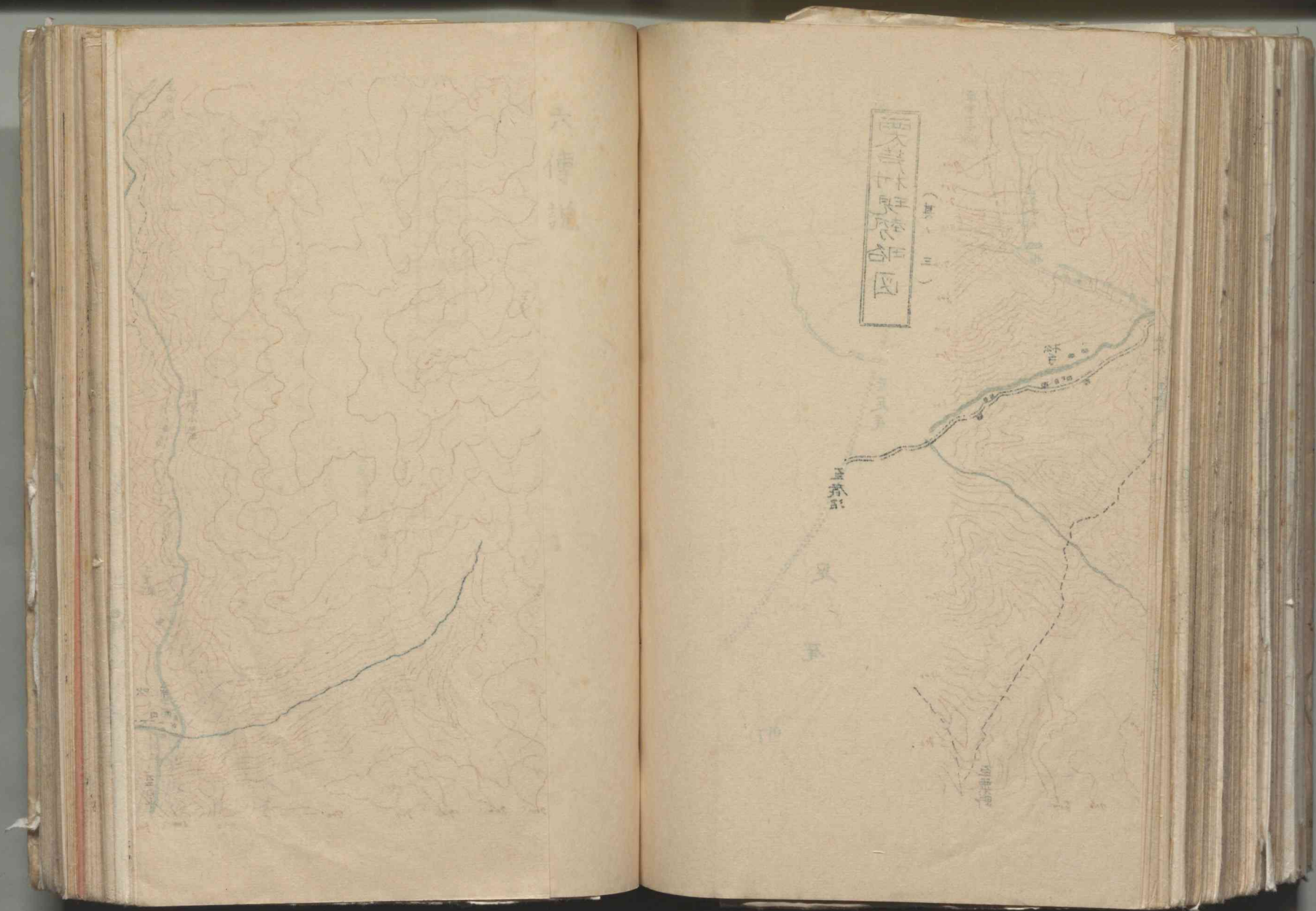
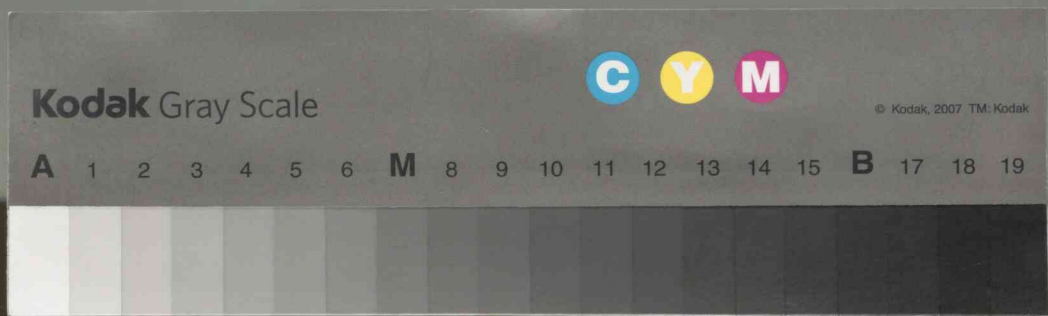


492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13



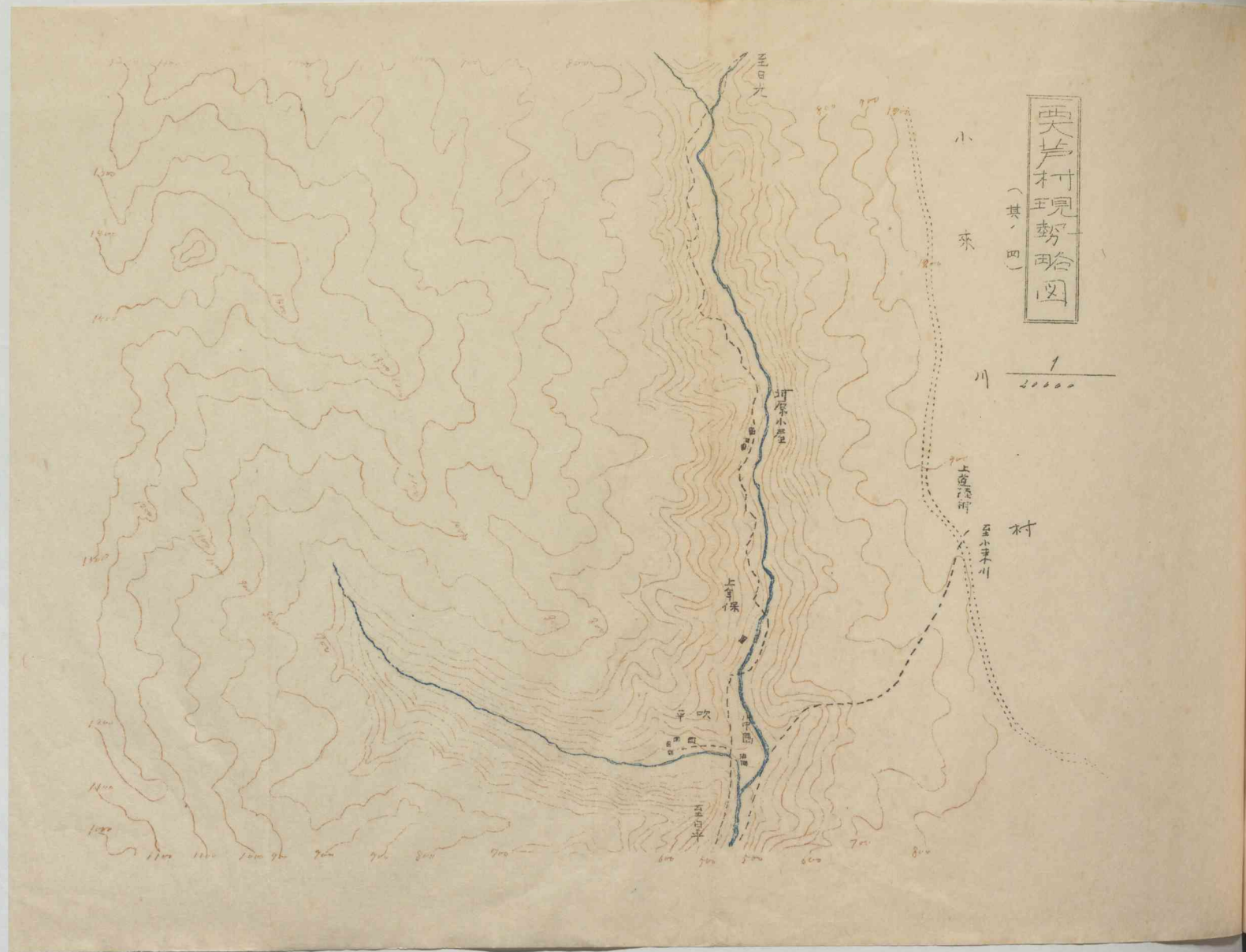


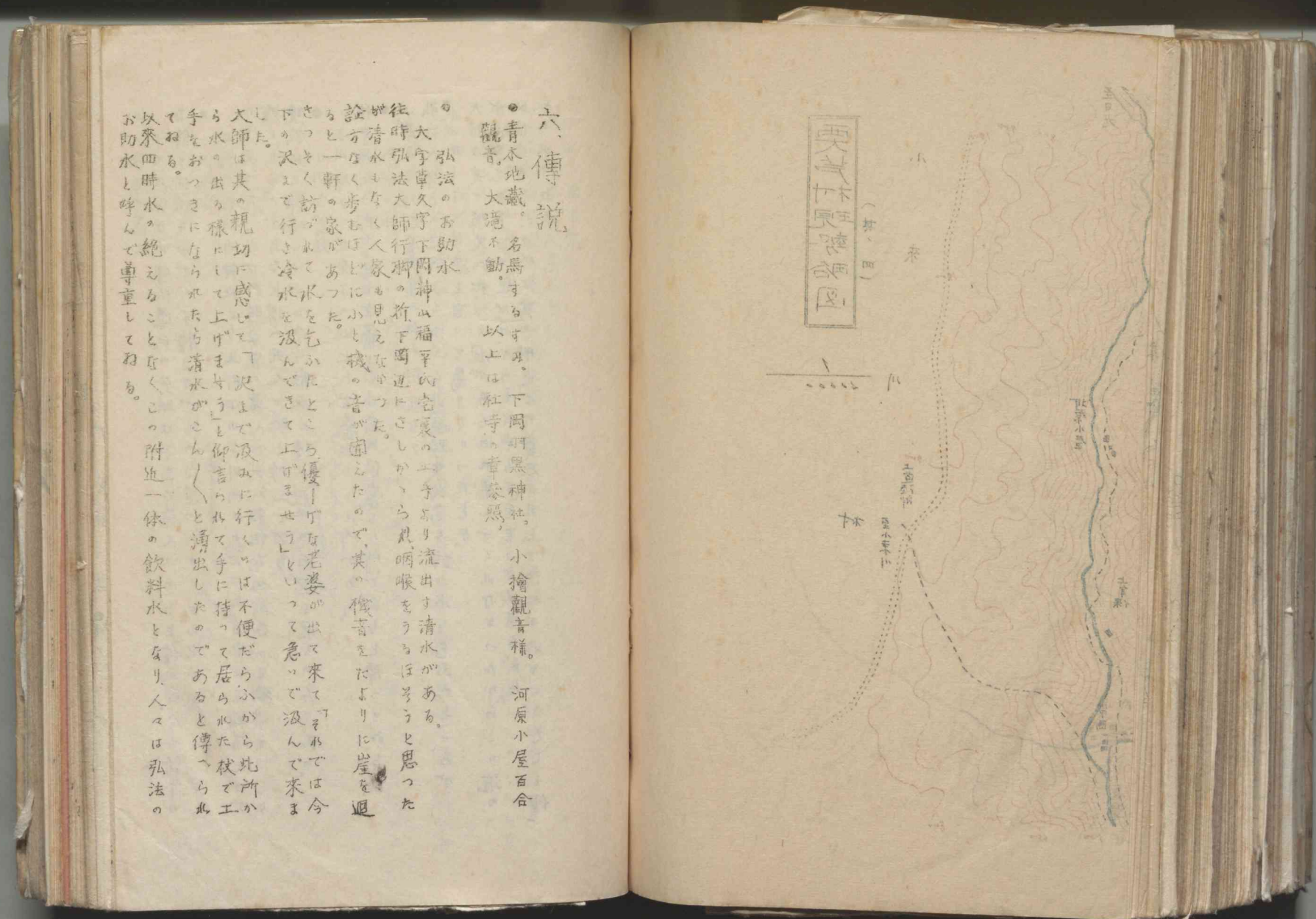
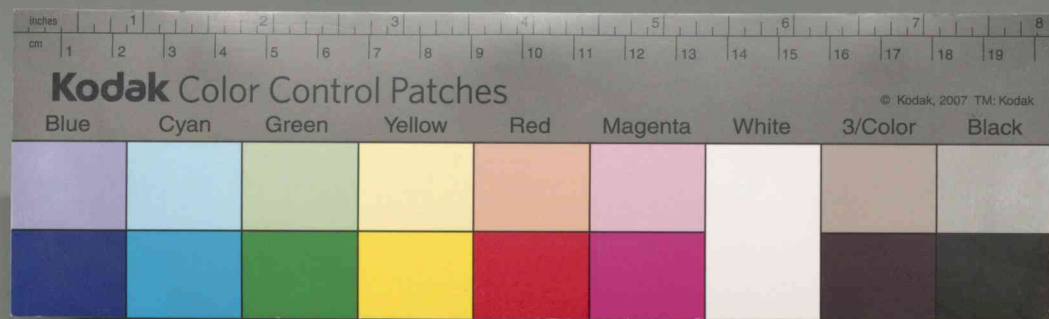


492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13





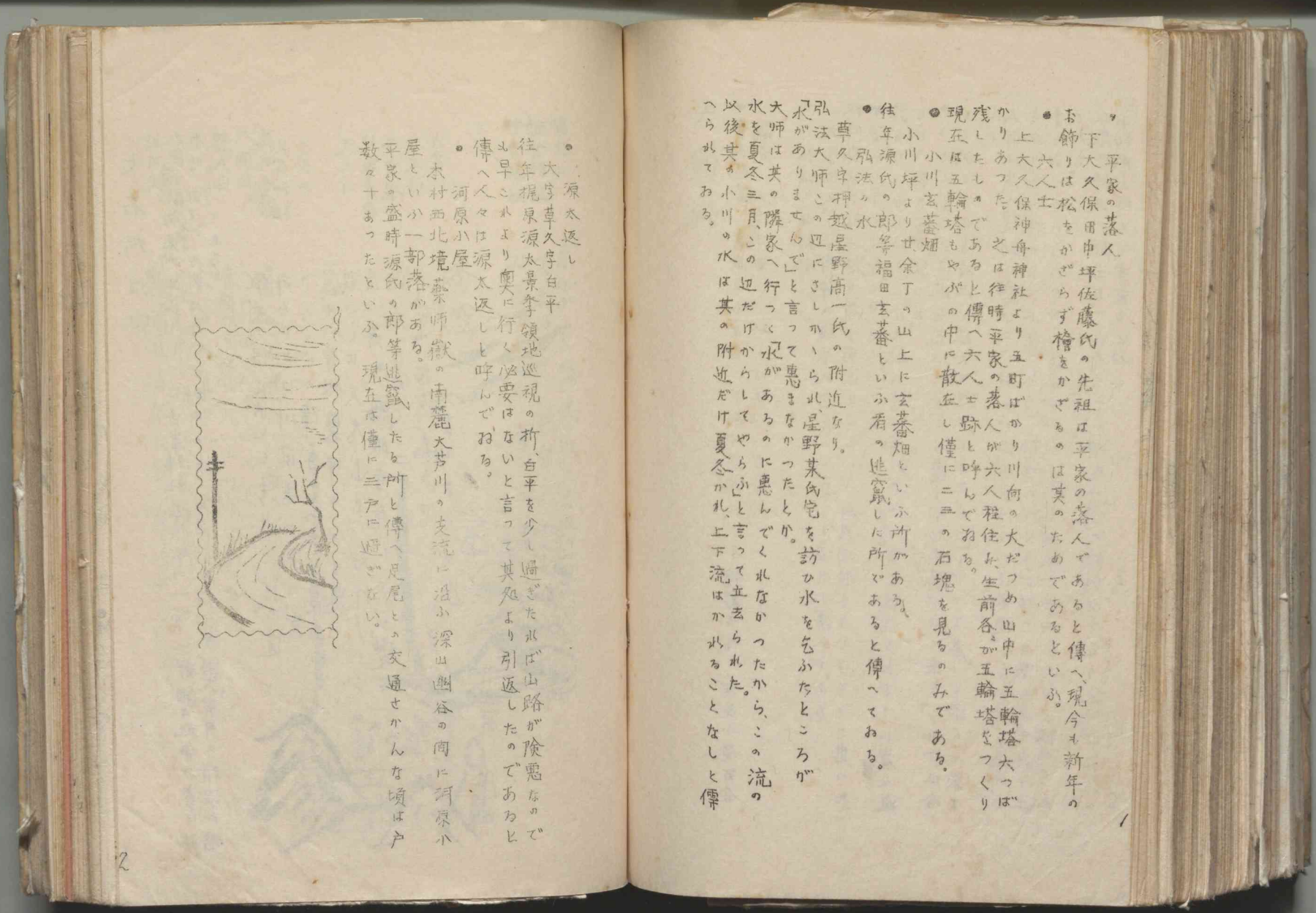
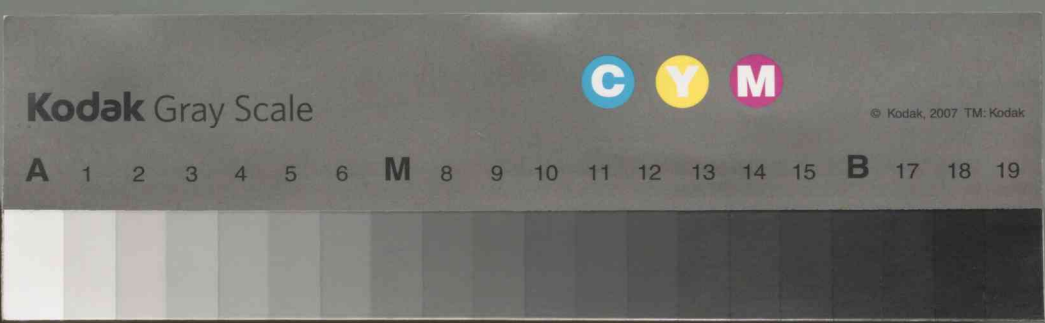
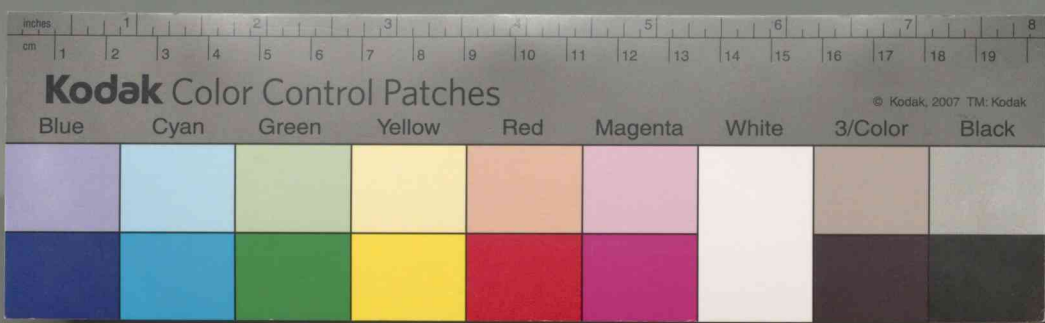


六傳説

●青木地蔵。名馬するす。下岡町黒神社。小繪観音様。河原小屋百合観音。大滝不動。以上は社寺。首蒙照。

弘法のお助水
大寺草久字下岡神山福平の舎裏の工字より流出す清水がある。
往時弘法大師行脚の時下岡道にさしかゝらば咽喉をうるほさうと思つた
が清水もなく人衆も見えなかつた。
詮方なく歩むはれに小と機。音が聞えたので、其の機音をたよりに崖を廻
ると一軒の家があつた。
さつとく訪ねて水を乞ふたところ、優しげな老婆が出て来て「それでは今
下り沢まで行きて冷水を汲んできて上げませう」といって急いで汲んで來ま
した。
大師は其の親切に感して「沢まで汲みに行くのは不便だから此所か
ら水の出る様にして上げませう」と仰言られて手に持って居られた杖で工
手をおつさになられたら清水がこんくと湧出したのであると傳へられ
ておる。
以來四時水、絶えることなくこの附近一帯の飲料水となり、人々は弘法の
お助水と呼んで尊重してゐる。

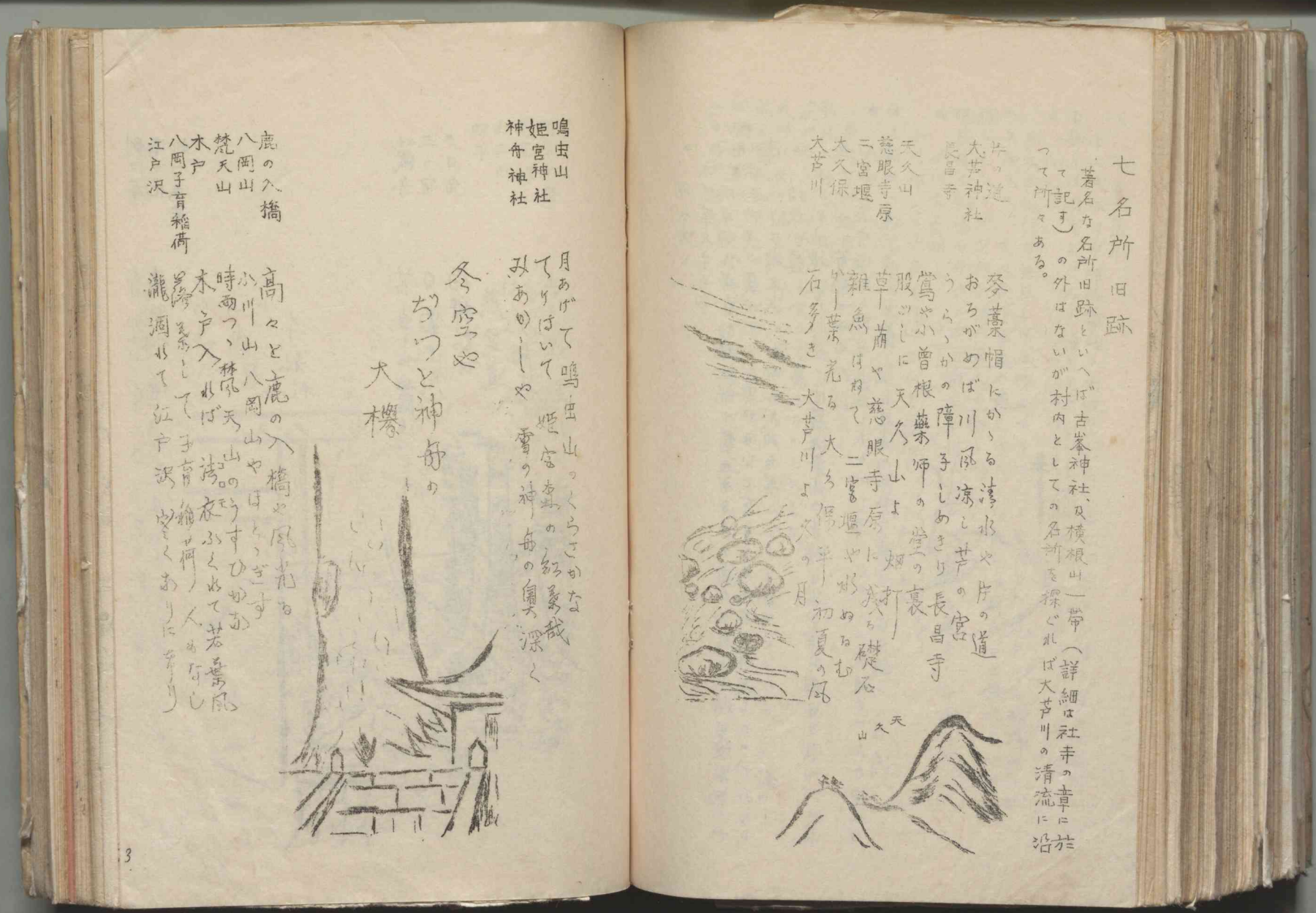
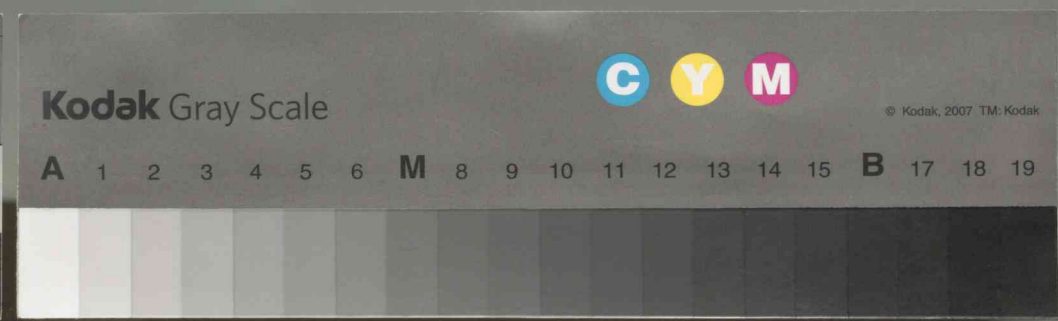
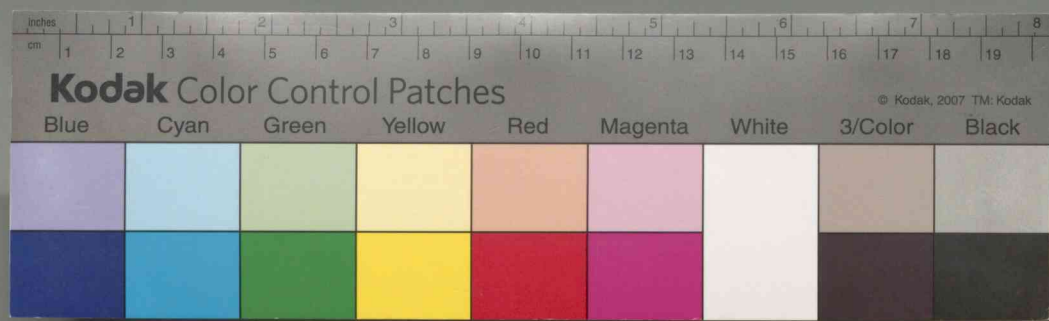




平家の落人
 下大久保田中坪佐藤氏の先祖は平家の落人であると傳へ、現今も新年の
 飾りは松をかざらざる櫓をかざる。は其のおめでありといふ。
 六人土
 上大久保神舟神社より五町ばかり川向。大だつめ山中に五輪塔大つば
 かりあつた。之は往時平家の落人が六人程住み生前各が五輪塔をつくり
 残したもである。傳へ六人土跡と呼んでおる。
 現に五輪塔もやがの散らし僅に二三の石塊を見るのみである。
 小川玄蓋畑
 小川坪より廿余丁の山上に玄蓋畑といふ所がある。
 往年源氏。郎等福田玄蓋といふ看。逃竄した所であると傳へておる。
 草久字押越屋野高一氏の附近なり。
 弘法大師の迎にさしつかへられ、星野某の宅を訪か水を乞ふたところか
 水がありませぬと云つて恵まなかつたか。
 大師は其の隣家へ行く。水がある。に恵んでくればなかつたから、この流の
 水を夏冬三月この迎だけからしてやらふと言つて立去られた。
 以後其の小川の水は其の附近だけ夏冬が氷上下流はか氷ることなしと傳
 へられておる。

源太返し
 大寺草久字白平
 往年梶原源太景季領地巡視の折、白平を少し過ぎた水は山路が険悪なので
 此早こ水より奥に行く必要はないと言つて其処より引返したのであると
 傳へ人々源太返しと呼んでおる。
 河原小屋
 本村西北境、茶師嶽の南麓大芦川、支流に沿ふ深山幽谷の間に河原小
 屋といふ一部落がある。
 平家。盛時源氏の郎等逃竄した所と傳へ足尾と交通せかん頃、戸
 数々十あつたといふ。現在僅に三戸に過ぎない。





鹿の入橋
八岡山
梵天山
水戸
八岡子育稲荷
江戸沢

鳴虫山
姐宮神社
神舟神社

高々と鹿の入橋の風光
小川山八岡山や日とさす
時雨つ、林原天のうすひめあ
木戸入れば、法衣ふくめて若葉風
瀧洞わて江戸沢、ゆきくありにすり

冬空也
ちつと神舟の
大櫓



月あがて鳴虫山のくらごめた
てりけいて、姐宮山の紅葉哉
みありしや、雪の神舟の奥深く

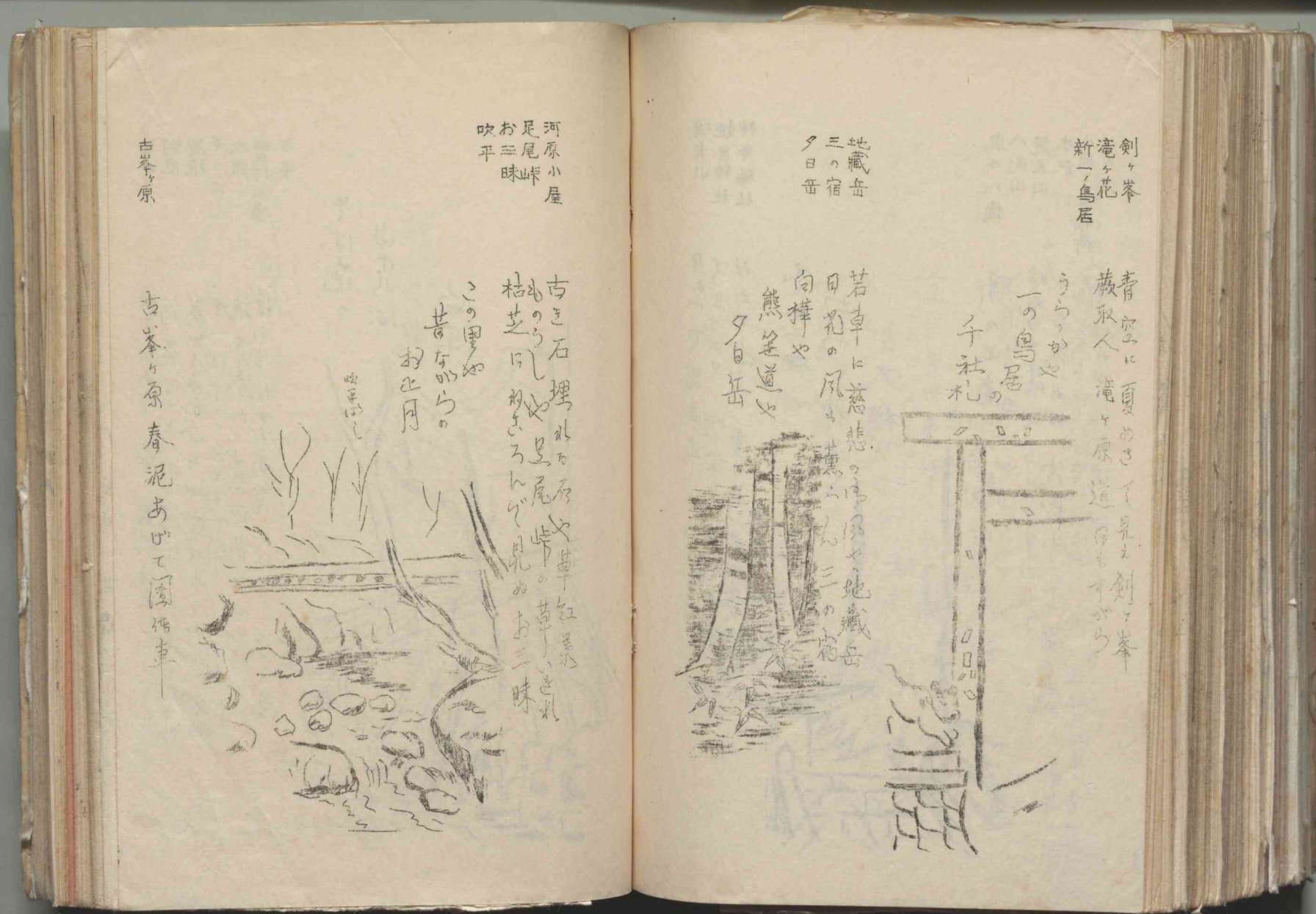
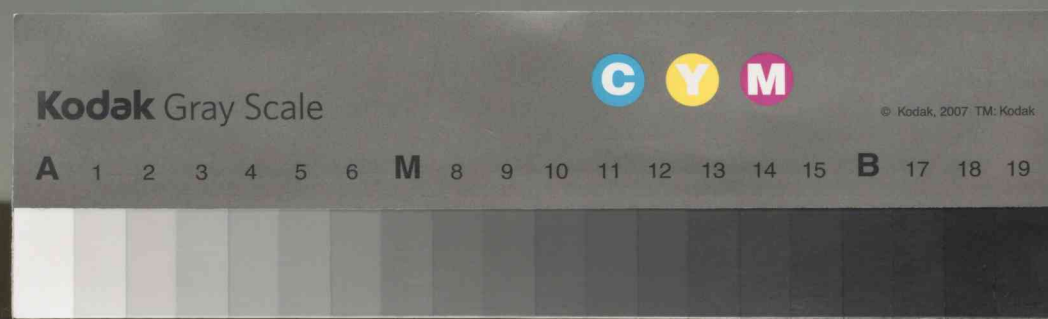
片の道
大若神社
長昌寺
天久山
慈眼寺原
二宮堰
大久保
大芦川

七名所旧跡

著名な名所旧跡といへば古峯神社、及横根山一帯（詳細は社寺の章に於
て記す）の外はないが、村内としての名所を探れば、大芦川の清流に沿
つて所々ある。

麥藁帽にのる、清水や片の道
おろがめば、川風涼し、芦の宮
うら、かの障子しめきり、長昌寺
鶯や小曾根、薬師の登の裏
股のしに、天久山よ、畑打
草の蒨や、慈眼寺原に、美ら礎石
雑魚、はねて、二宮堰や、初夏の風
石多き、大芦川よ、月





古峯ヶ原

河原小屋
足尾峠
お三味
吹平

古峯ヶ原 春泥あびて 國傳車



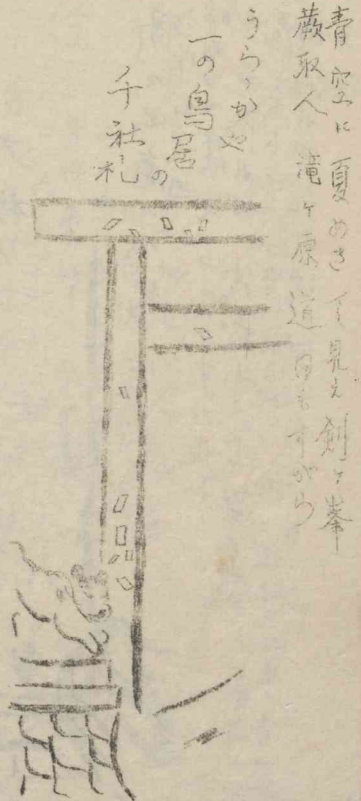
古き石 埋水の石や 草下紅葉の
枯草のしほり 足尾峠の 草下色れ
この田舎
昔ながらの
お正月
吹平

地蔵岳
三の宿
夕日岳

剣ヶ峯
滝ヶ花
新ヶ鳥居

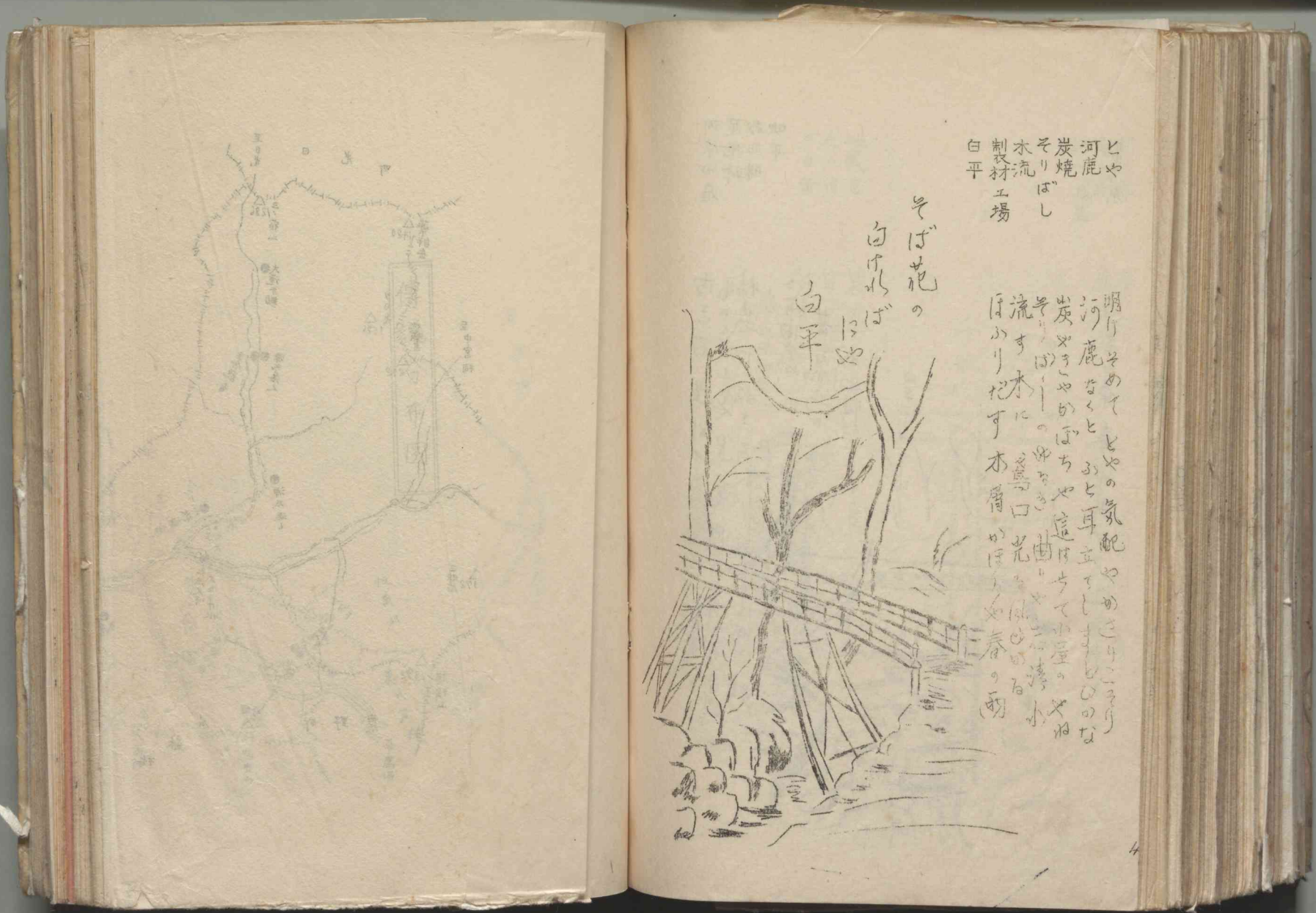
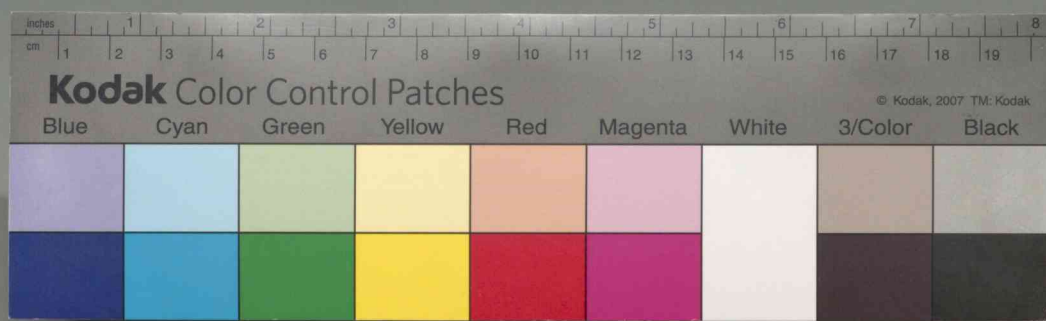
若草に 慈悲の 月夜 地蔵岳
日花の 風 三の宿
白樺や
熊笹道や
夕日岳

千社礼の



青空に 夏めき 見え 剣ヶ峯
蕨取人 滝ヶ原 道白もすがり
うららかな
一の鳥居







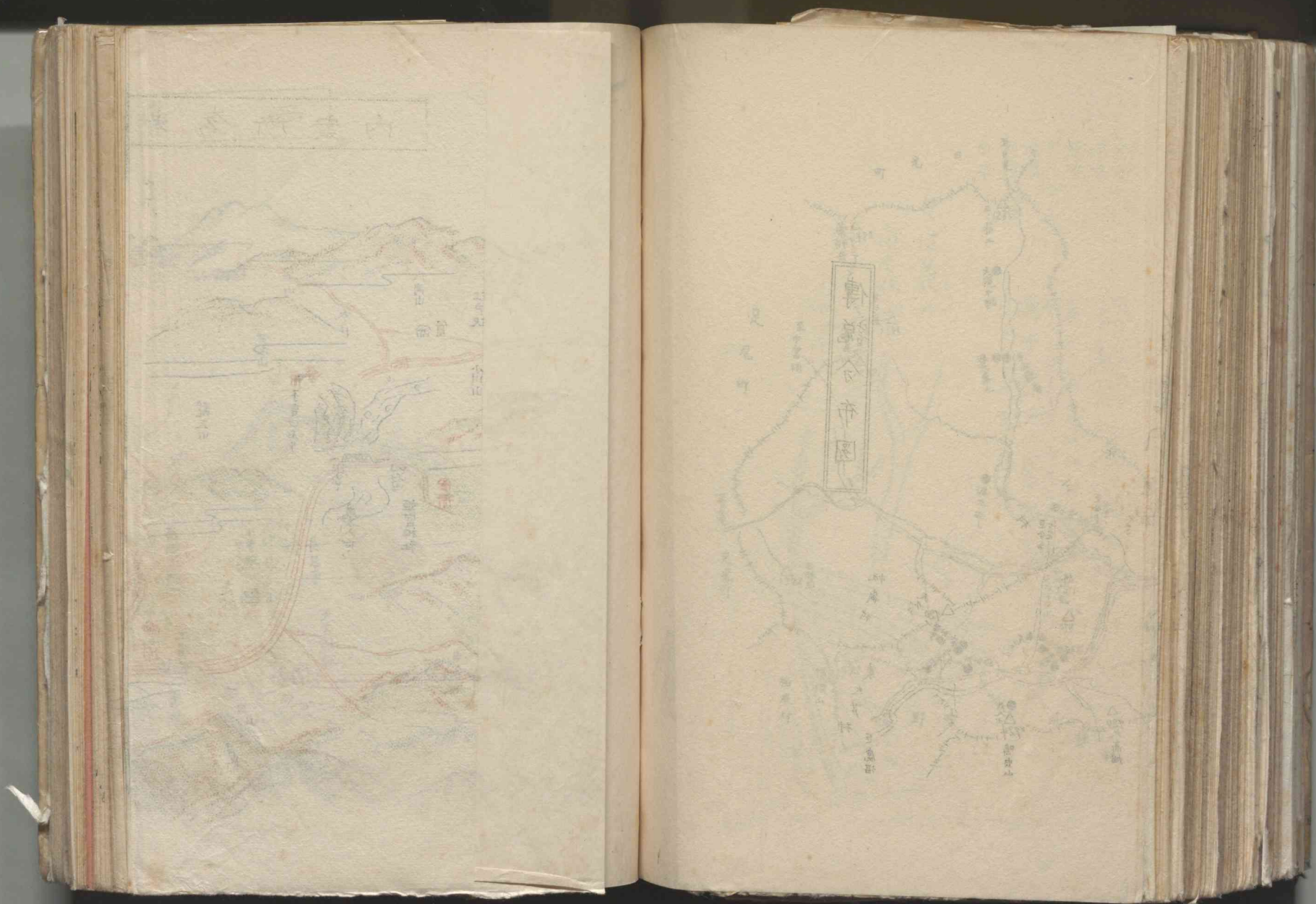
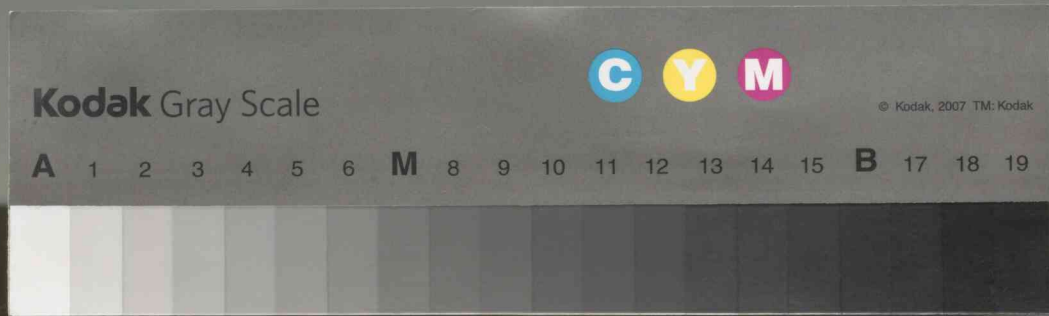
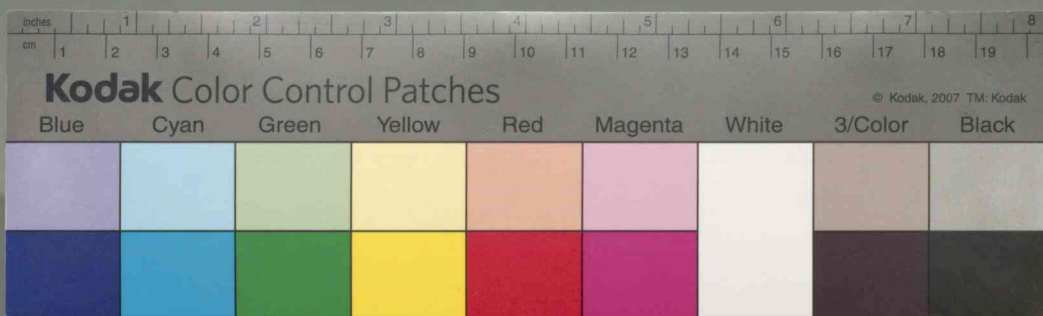
傳説分布圖



そば花の
白け水ば
白平

そのはし
木流
製材
工場
白平
流す
木に
す木
骨
光
春
雨

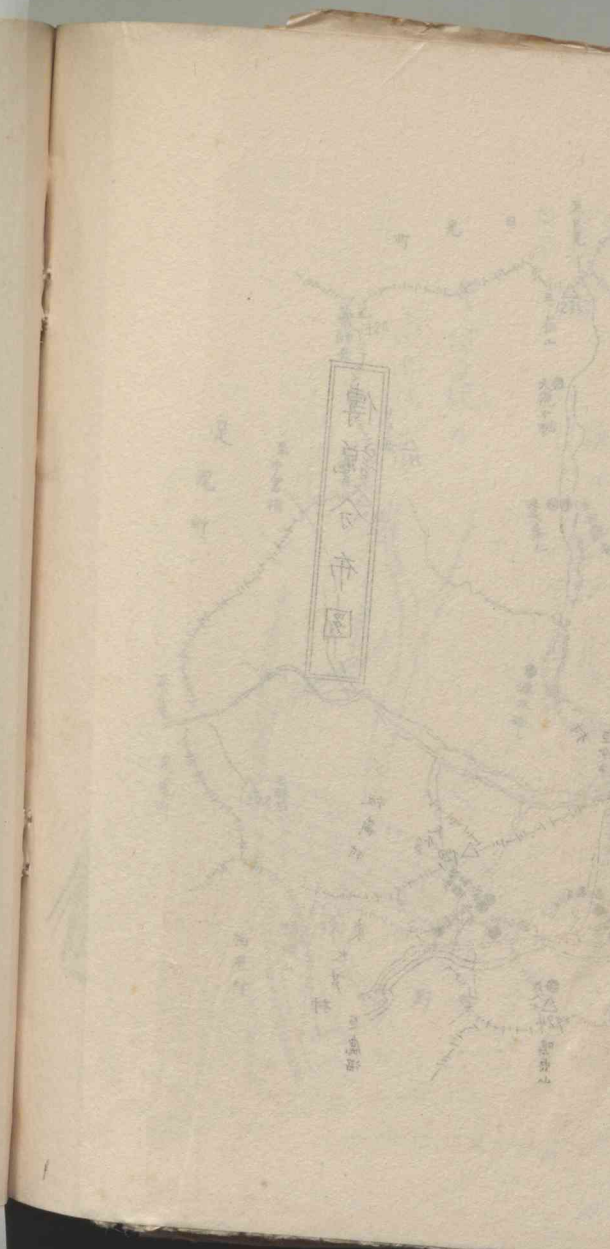
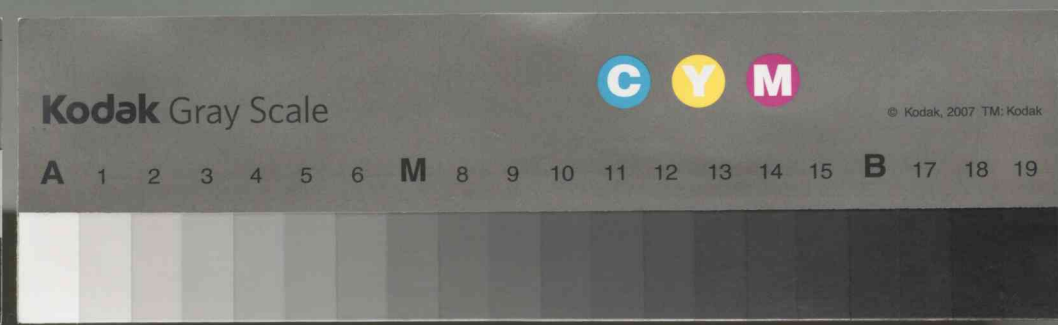
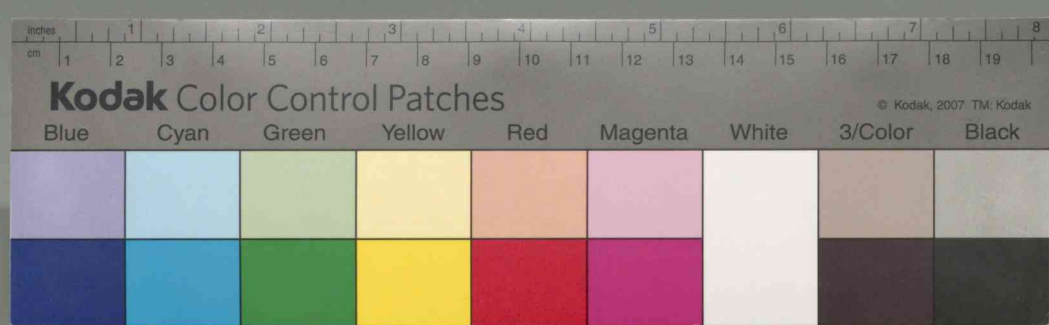




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

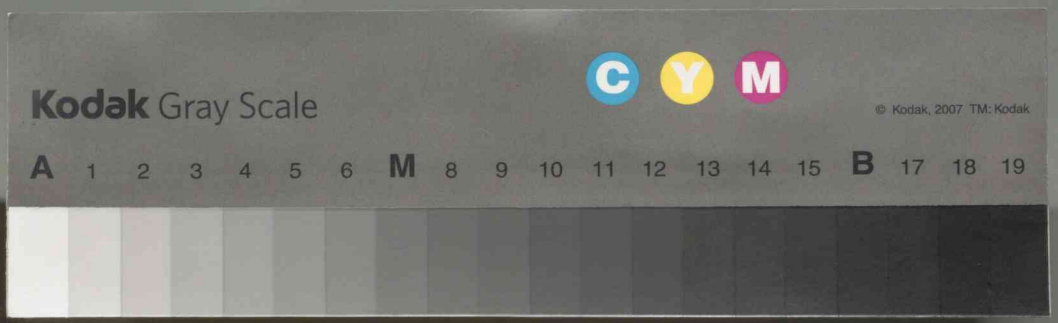
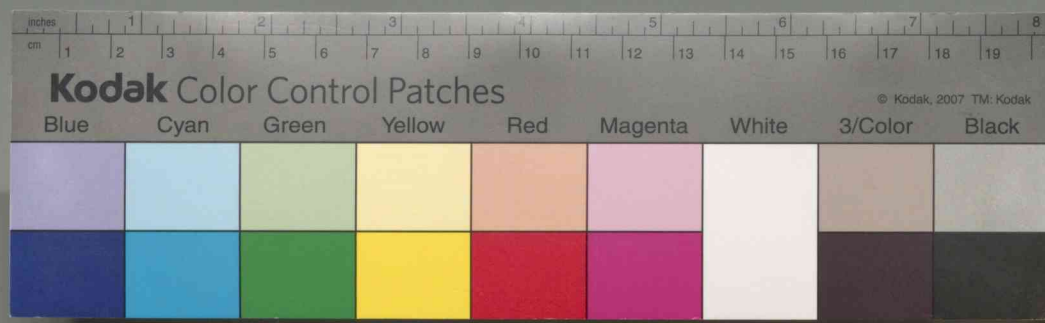
13





492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

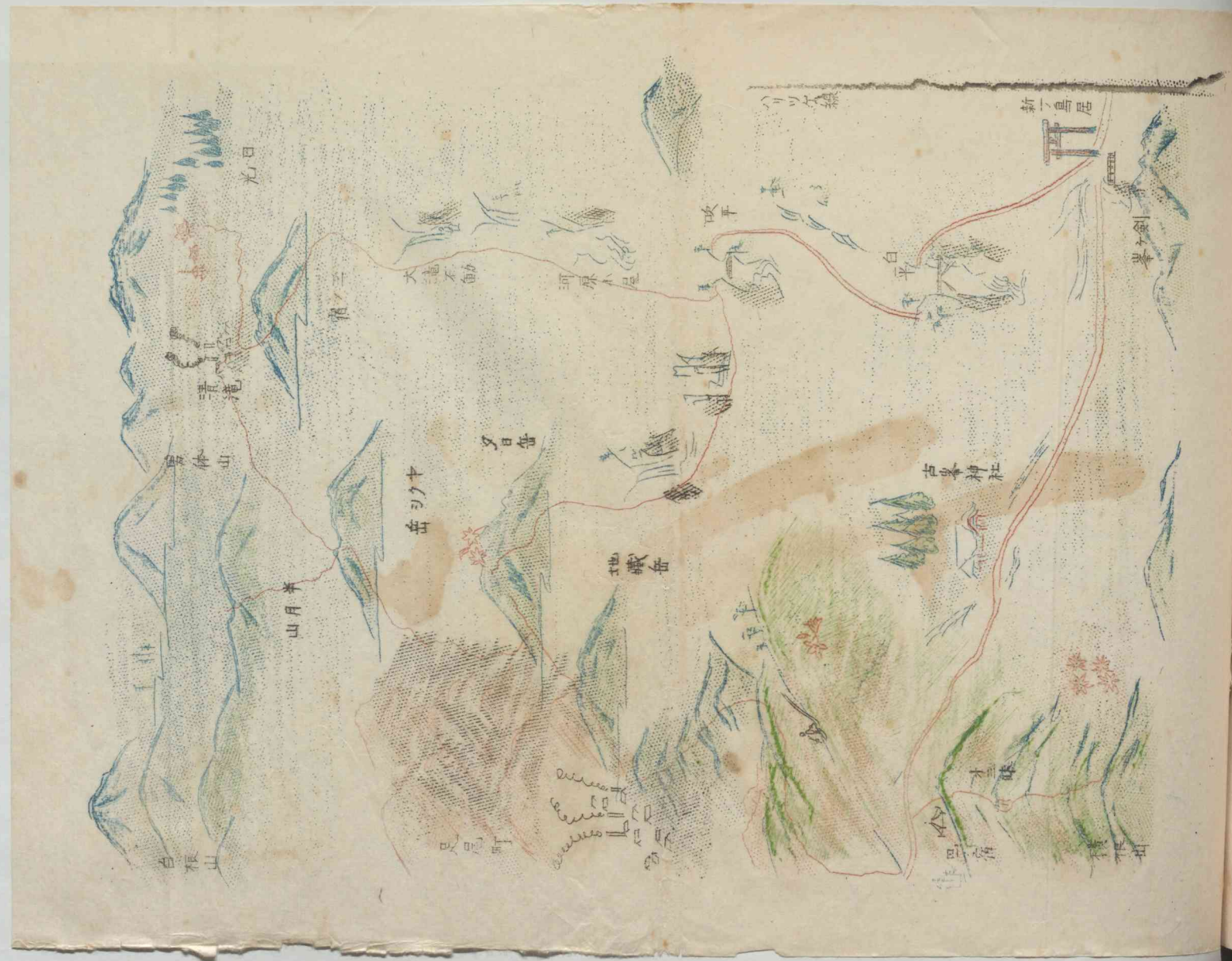
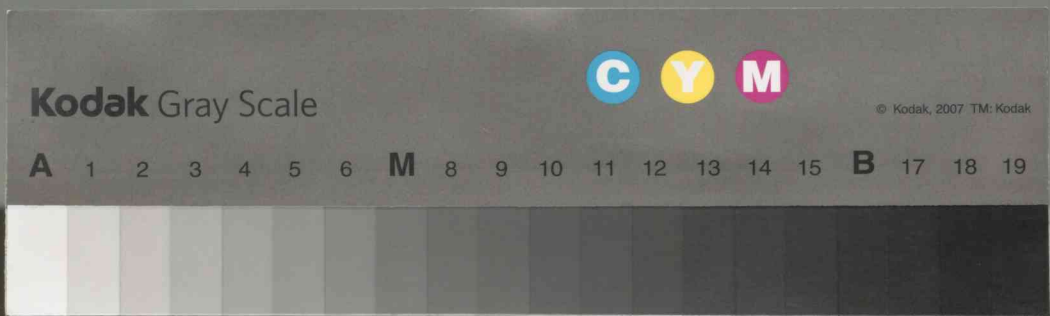




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13

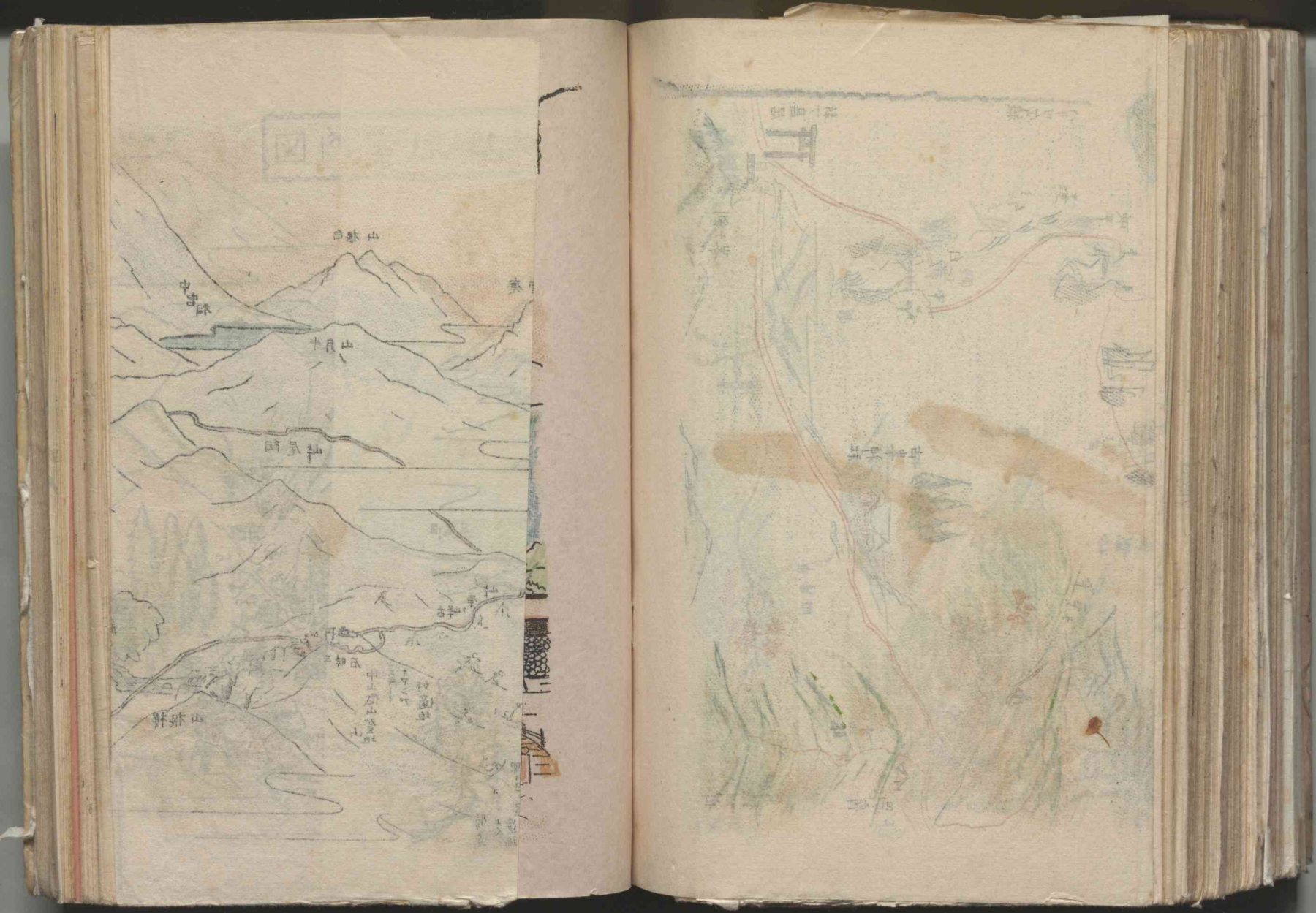
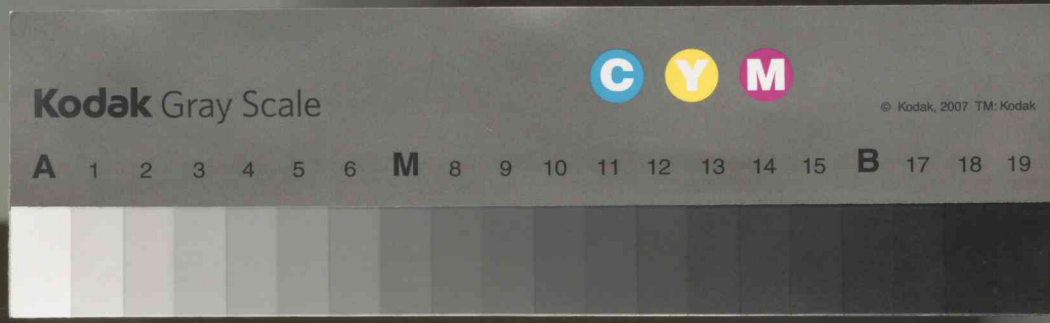
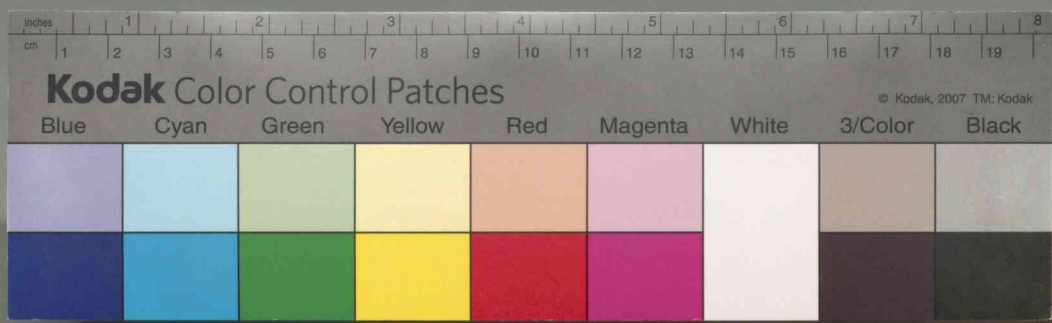




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13

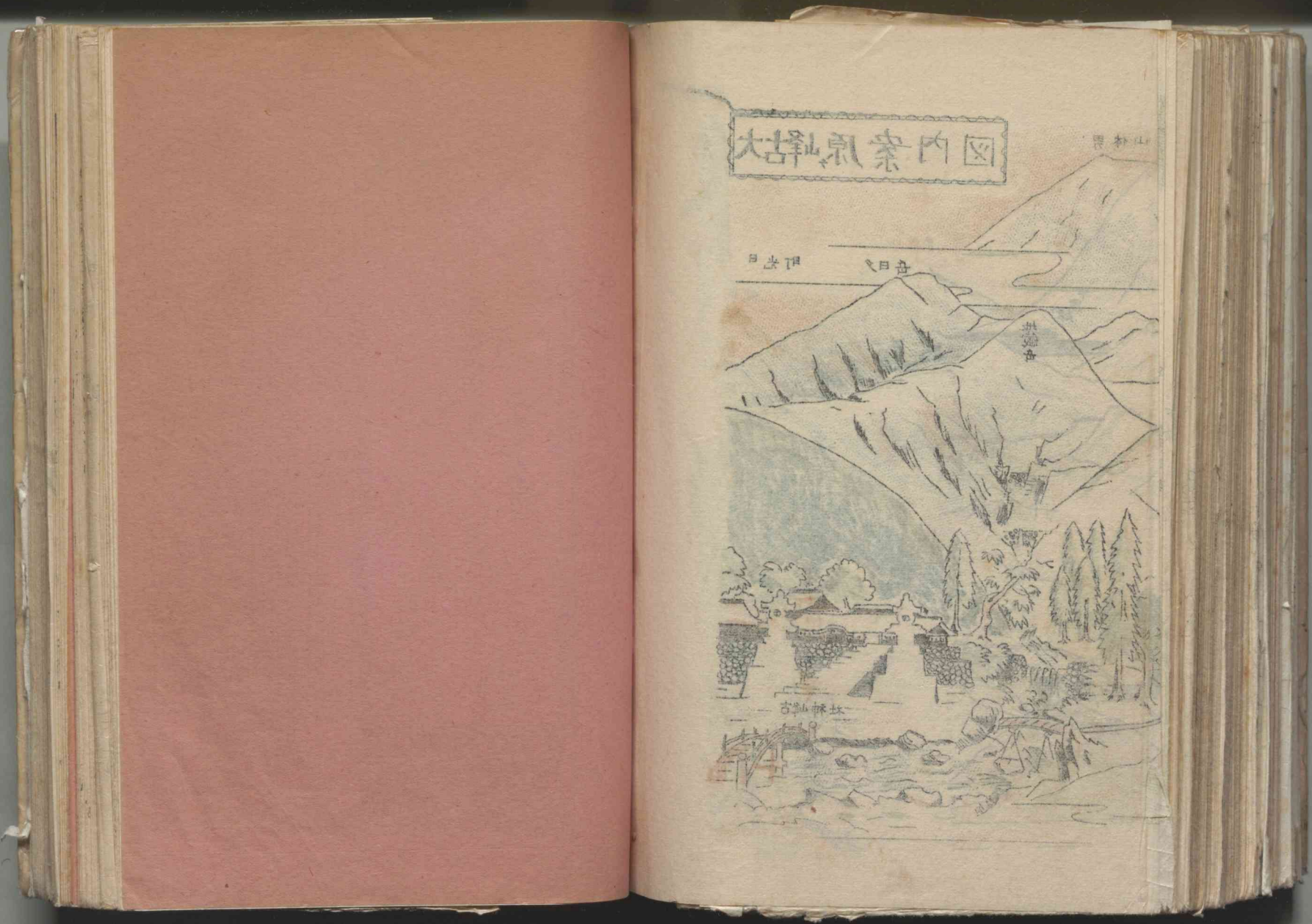
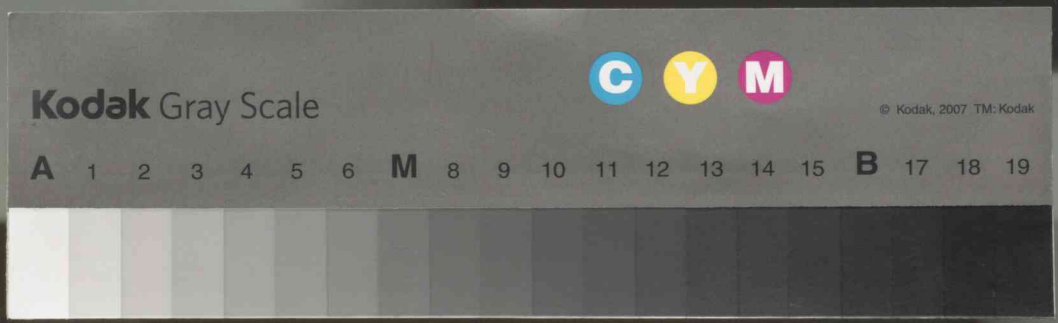
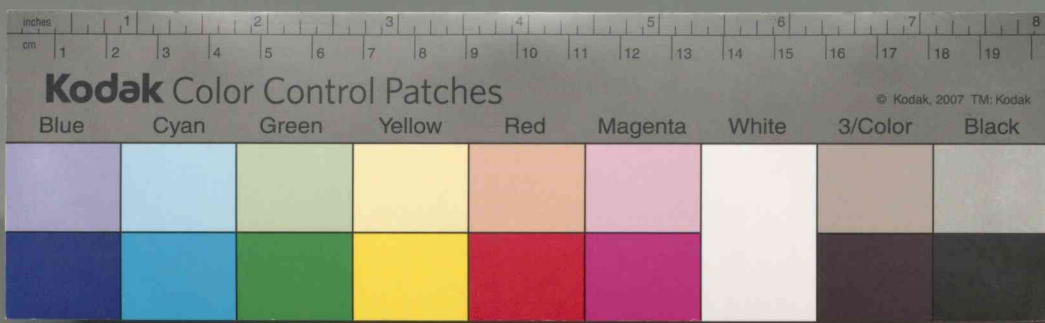




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13

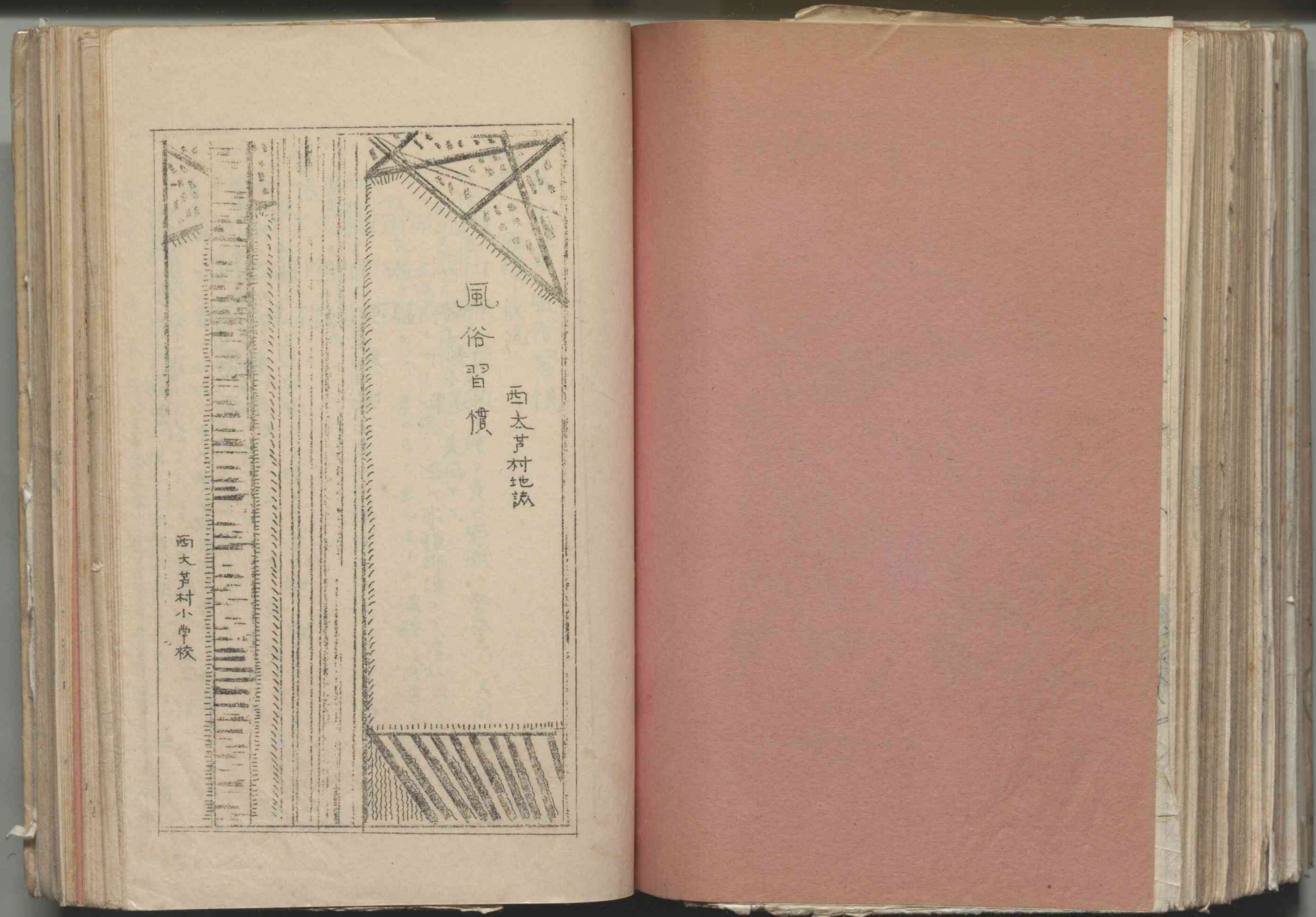


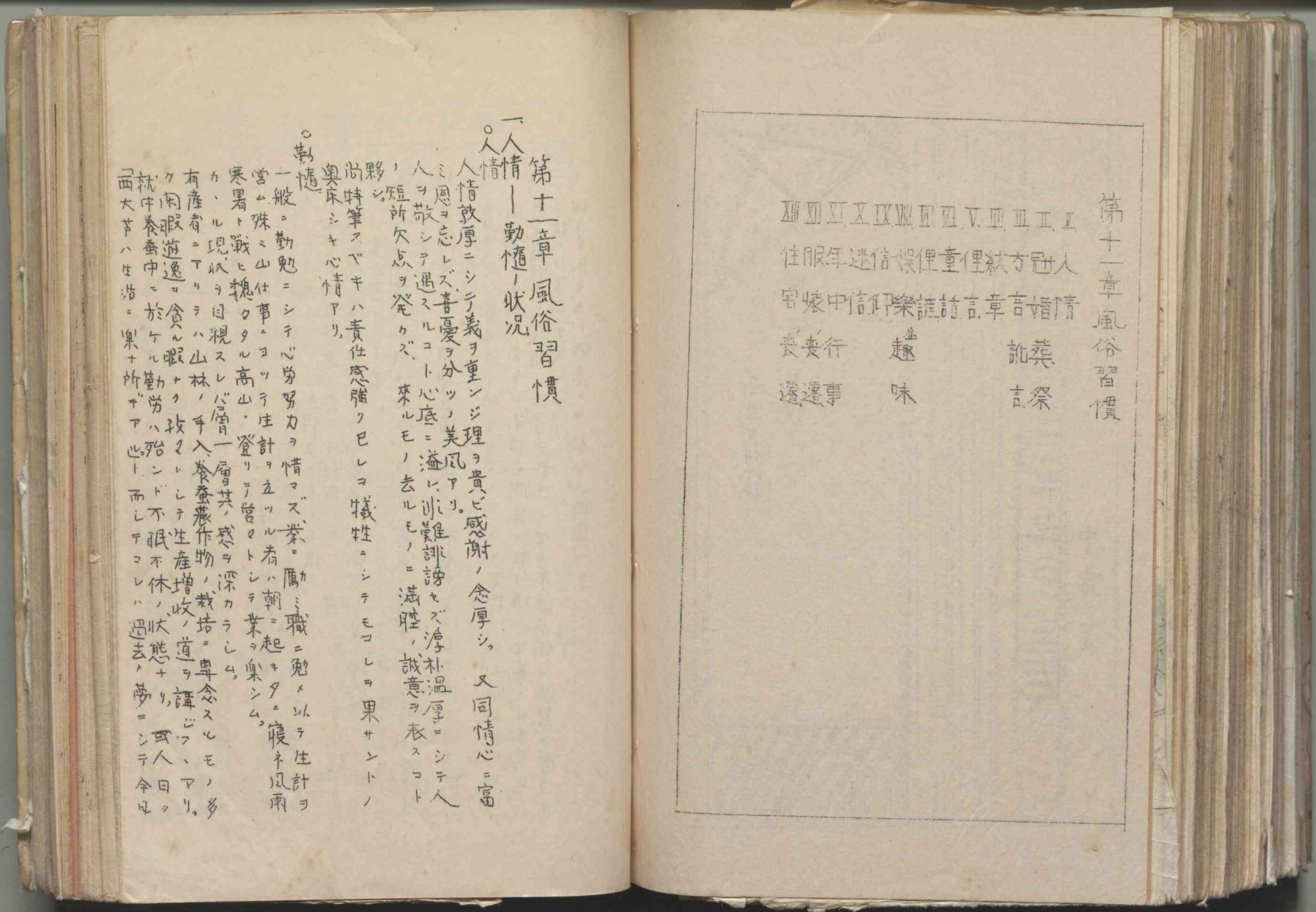
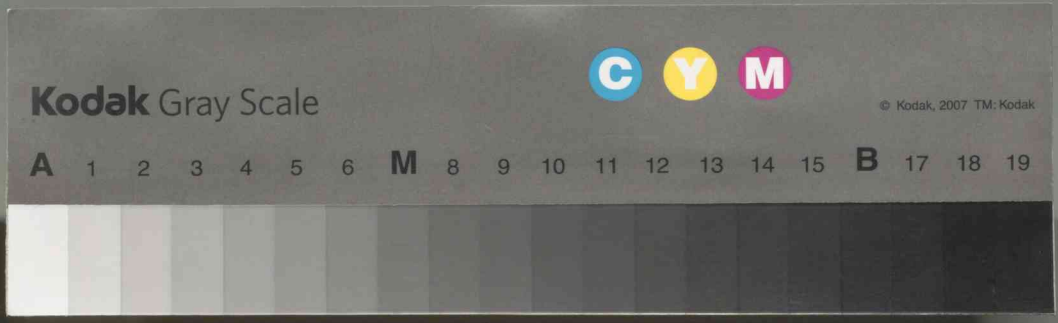
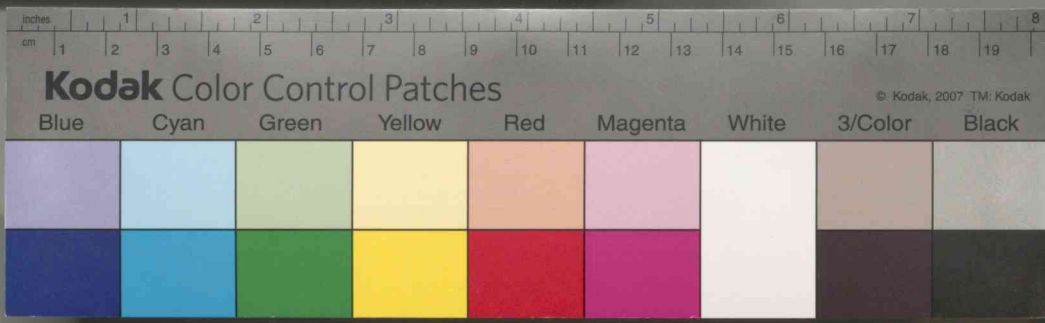


492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13





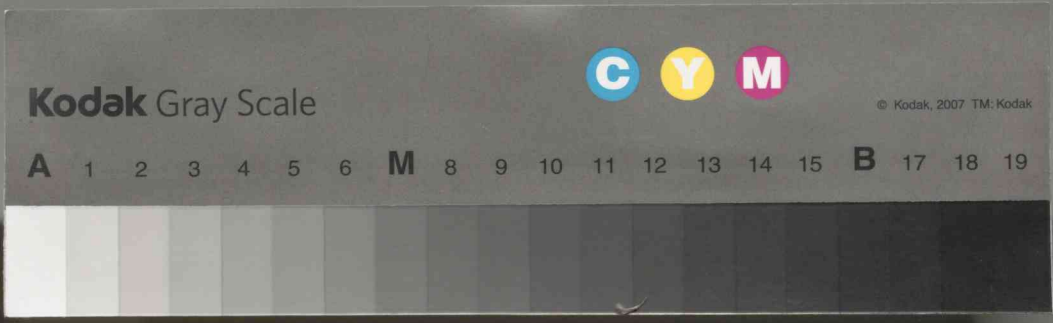


人情 勤惰 状況
第十一章 風俗習慣

人情敦厚ニシテ義ヲ重ンジ理ヲ貴ビ感謝ノ念厚シ。又同情心ニ富
ミ恩ヲ忘レズ普愛ヲ分ツ美風アリ。唯難誦モズ淳朴温厚ニシテ人
人ヲ敬シテ遇スルコト心底ニ溢レハ唯難誦モズ淳朴温厚ニシテ人
短所欠点ヲ発カズ。來ルモノ去ルモノニ満足、誠意ヲ表スコト
尚特筆スバキハ責任感強ク已レヨ犠牲ニシテモコレヲ果サントノ
奥床シキ心情アリ。

第十四	第十五	第十六	第十七	第十八	第十九	第二十	第二十一	第二十二	第二十三	第二十四	第二十五	第二十六	第二十七	第二十八	第二十九	第三十
住	年	迷	信	悞	俚	童	俚	紋	方	冠	人					
寄	懐	中	信	仰	樂	誦	言	章	言	婚	清					
喪	喪	行			趣				訛	葬						
遷	遷	事			味				言	祭						





年中仕事日表

日	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
仕事日	1	2	5	2	4	2	1	6	1	2	2	1	36
休日	3	0	1	1	2	1	0	2	1	1	3	1	16
仕事時間	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
仕事時間	8	6	10	7	10	7	5	12	6	7	16	6	100
仕事時間	二三	二四	九	二三	六	九	〇	一九	〇	二四	一	〇	一九三
仕事時間	七二	〇	〇	一三	一五	一五	二五	〇	五	〇	〇	〇	七二
仕事時間	二六五	二四	二一	二三	二一	二四	二五	一九	二四	二四	二二	二五	二六五
仕事時間	廿三	麻引	麻引	麻引	秋会	秋会	秋会	秋会	秋会	秋会	秋会	秋会	廿三
仕事時間	廿三	麻引	木葉サラシ										廿三

ニ於テハ不当ノ流言トナリタリ。而シテハ餘裕アルニサツテ遊惰ニ耽ルモノナレトセズ。餘裕アルハ安達ニ陥ルハ自然ナルモコレ人道上許サレザルモノナリ。村内ニカハル北候ノ分ナリトモ見ユルトホフコトハ遺憾トスル所ナリ。尚雨天降雪夜雨等ノ利用少キ目下ノ不景氣ハ村民ニ深刻ナル生活苦ト金錢ノ尊サトヲ知ラシメ好景氣ノ時代ノ如キ一攫千金ノ夢ハ全ク破レ働カサレバ喰フベカラズノ言ヲ最モヨク味ヒ得タルモノト信ス。

一般ノ人智ノ向上ヲ望ミ共ニ本村民ハ大ニ醒メツテアリ。今後ハ益々勤勞勤儉ノ美風高マリ一層善良ナル國民トナルベシ。

1. 本仕事日表ハ本村ニ於ケル中流ノ農家ヲ標準トシテ作製シタルモノナリ。

2. 農家ニ主トシテ用ニ從ツテ本表モ主トシテ用テヨリ取り入レテ作製ス。

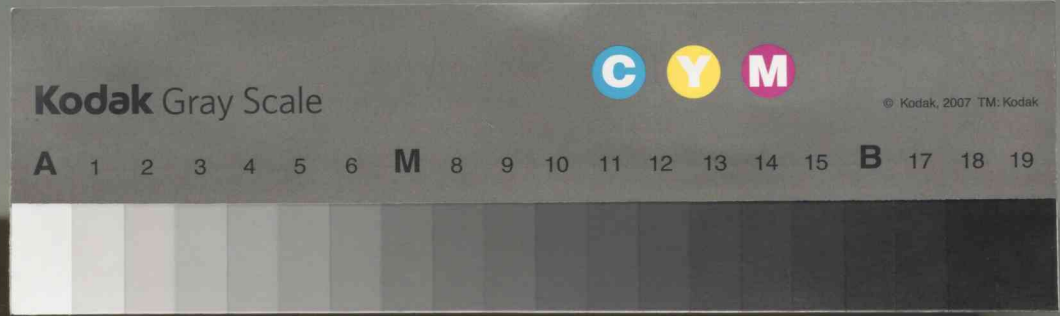
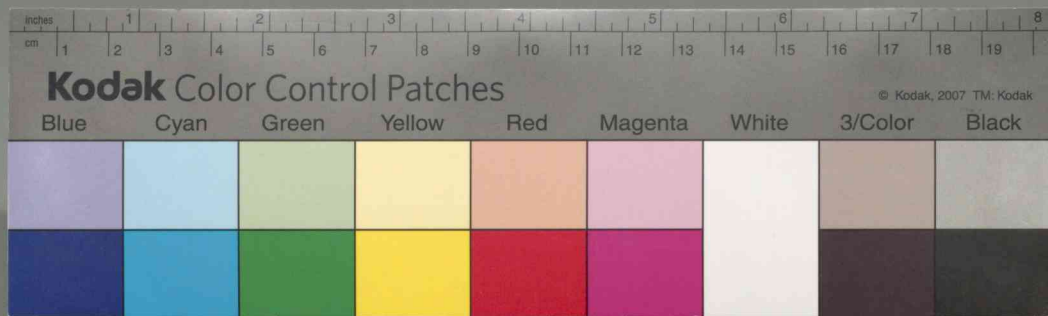
3. 雨雪ノ日ハ各日ノ四ツツセルモ實際ハコレ以上ナルベシ。

4. 雨晴日ハ本村ニ於テハ半休日同様ニ取り扱フモ差支ナカラシ。

5. 養蚕時ニ上熟期ノ仕事ノ如キハ全ク不眠不休ノ状態ニ常日ノ二倍ノ仕事ナラス。

6. 休日半休日等ハ部落ニヨリ幾分ノ相異アリ。





追悼
 初七日
 三十五日
 四十九日
 百廿日
 各コノ日ニハ生ガ親シキ人々相集リ香花ヲ手向テ供養サス。

口其ノ他
 ○入堂祝 出卷ノ前日親類縁者及近所組合其ノ他日頃親交アリシ者ヲ招待シ立振舞ト林シテ酒肴ヲ供シ引物ヲ引キテ賑カナル祝宴ヲ催ス招待ヲ受ケタルモハ友分ノ祝ヲ包ミ全全存分馳支ニ領リ入堂兵士ニ対シ祝辭ヲ述ブル例トス。

○七夜ノ祝 出卷ヨリ七日目ヲ七夜トイヒコノ日七夜ノ祝ヲナス。當日赤子ハ名ヲ載キ晴衣ヲ着 産婆ニ抱カレ大神宮氏神ヲ拜ス。便所ト橋渡リ初メ等、式ヲ行フ。入近所組合近クノ親類ノ子供ヲ招キ祝儀ニツカレメ赤飯ノ馳走ヲナス。引物トシテ子供ノ花ガ饅頭或ハ押菓子等ヲ出ス家アリ。子供等ハ七夜ノ祝ニ招カレラハ非常ニ喜ビテ待ツ。又出産祝ヲ受ケル家ニハ當日赤飯、饅頭又ハハル豆飯等ヲ引ク。近所組合ニ出産アルトキハ大庭七夜前ニ反物 切ヒ金銭共、他適當ナル祝品贈ル例トス。

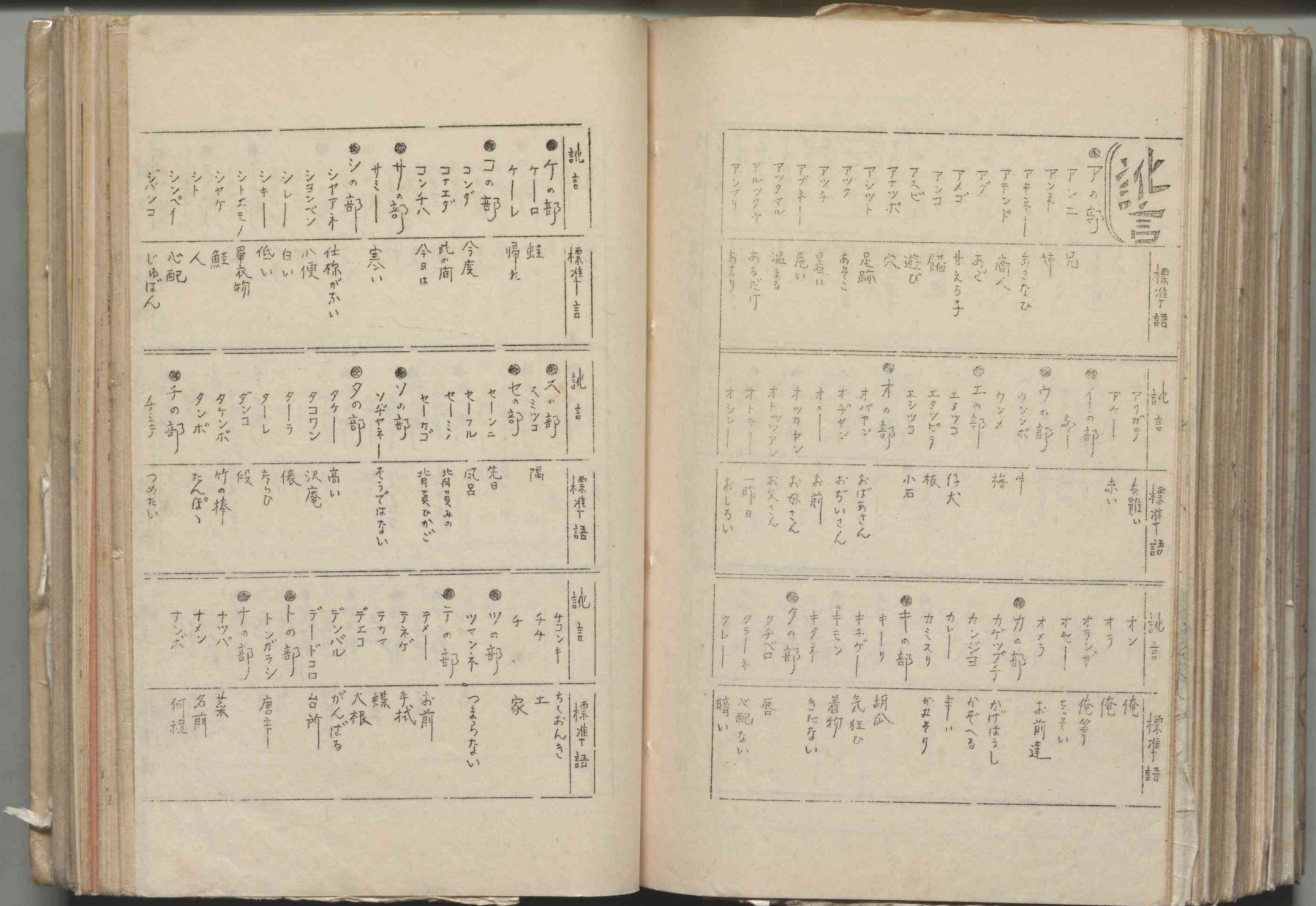
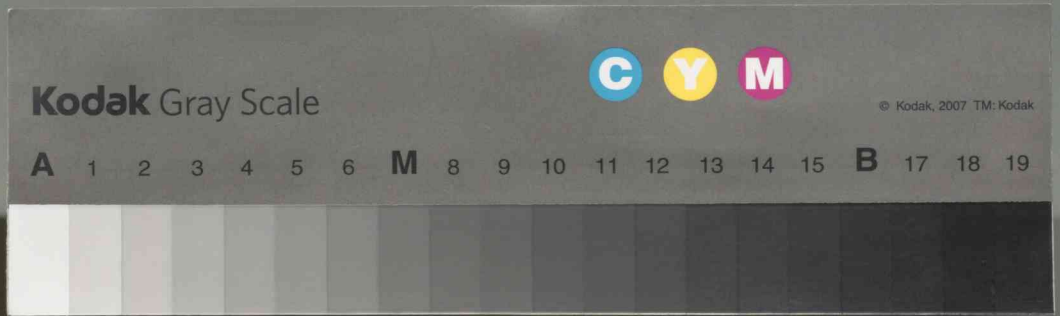
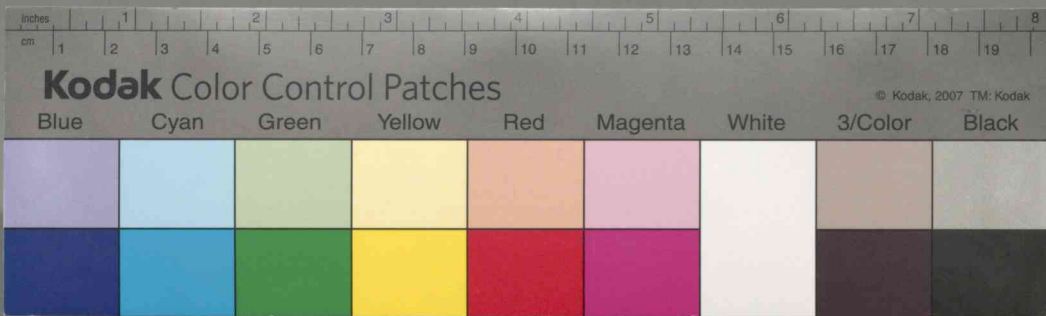
○會葬者 親類縁者日頃親交アリシモノ病氣見舞ヲシタル者等ニテ多クノ場合該家ヨリ通知受ケルモノアリ。通知ヲ受ケタル者ハ任意ノ香奠ヲ持参シ會葬ヲシ引物ヲ受ケルヲ常トス。

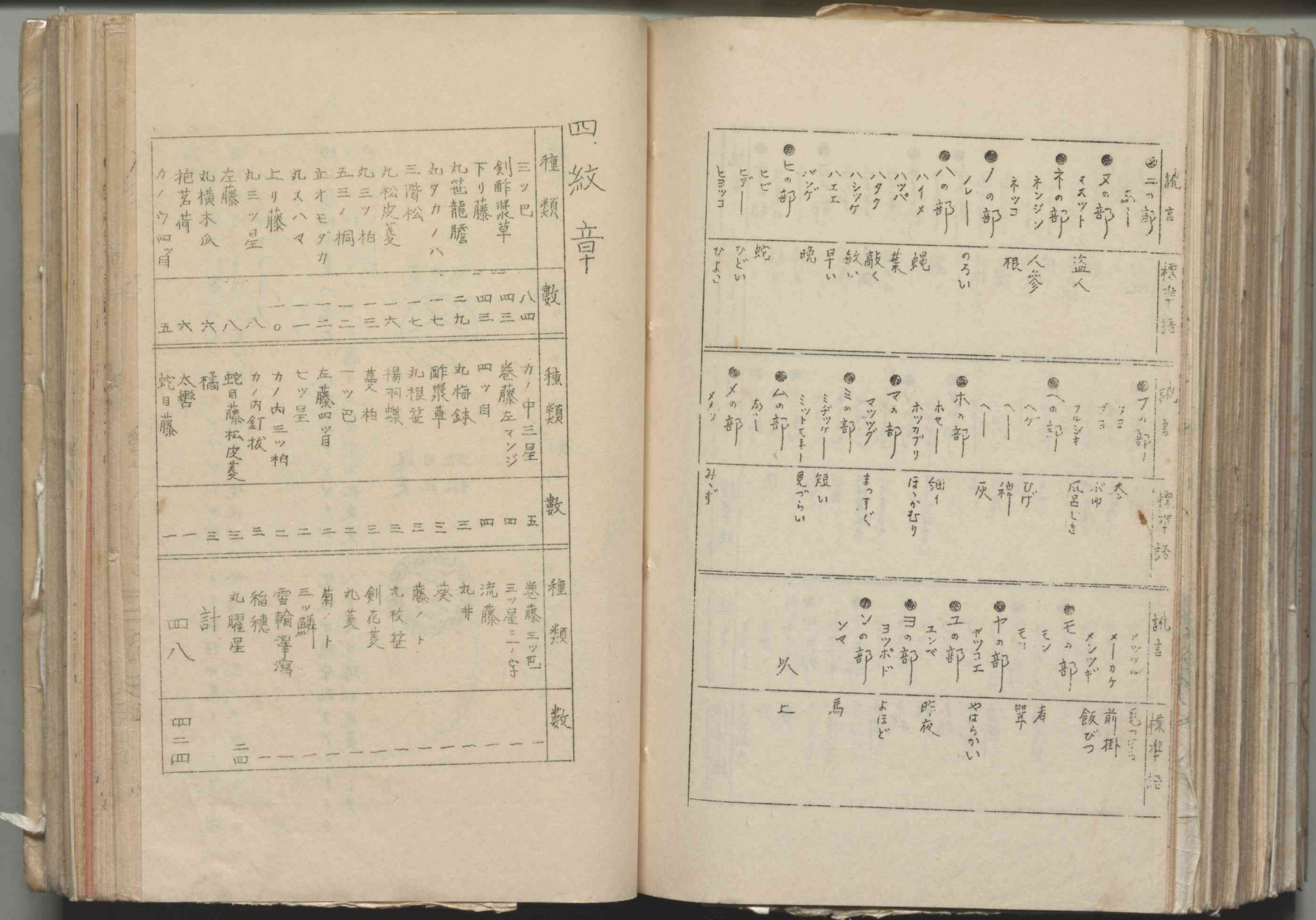
吊旗 花輪ヲ贈ル習慣アリ。棺ハ主トシテ講中ノモシキニテ調製セラレ購ッモノ 殆トナシ。本村ハ殆トテ神葬祭ニシテ佛共ハ極稀ナリ。土葬多クハ葬ハ俗儀ニ依リテトイフ可ナリ。

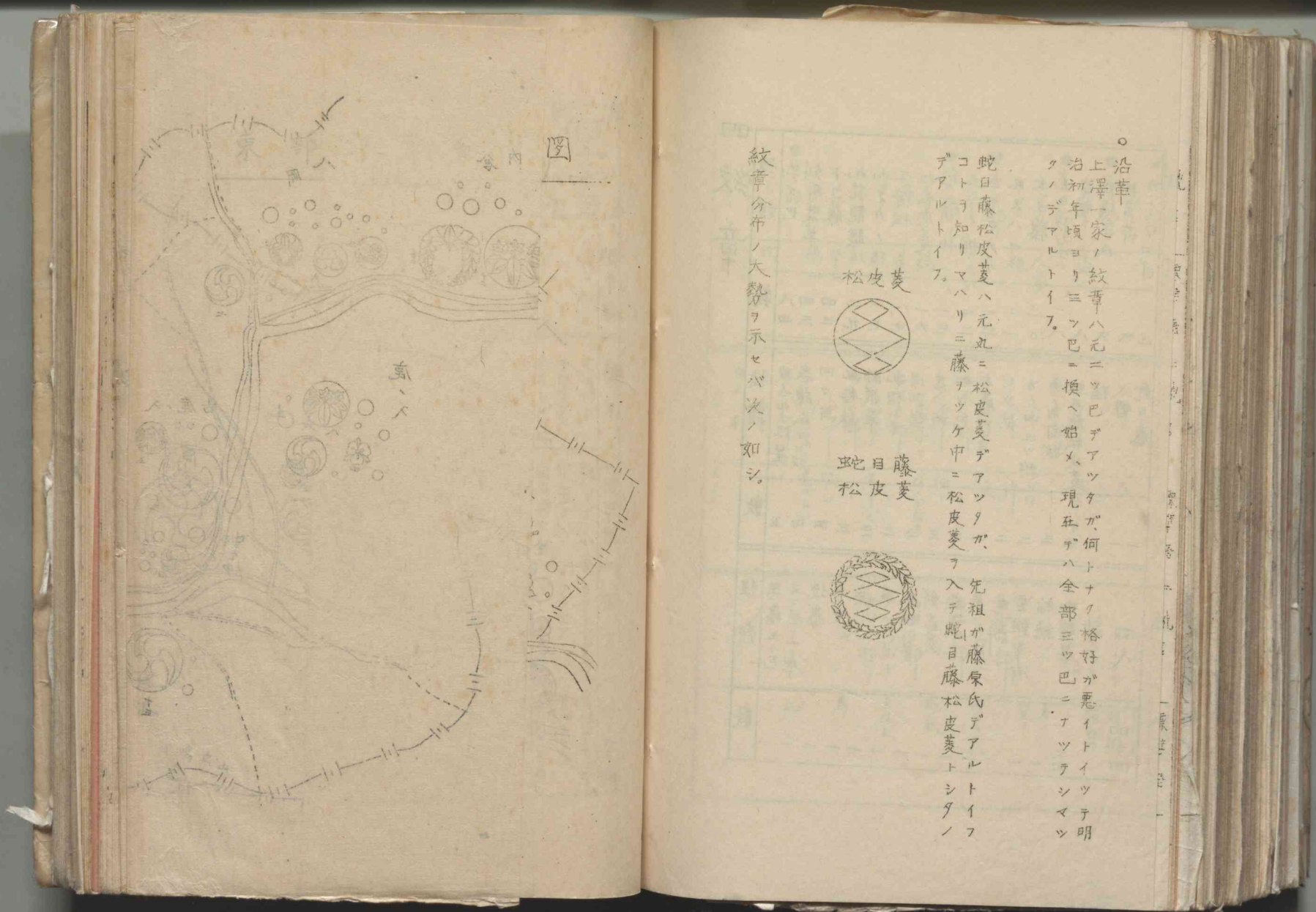
式取 納棺式告別式埋葬式 告別式終リテ焼香又ハ玉串ヲ捧ク。

○葬祭
 不葬儀 死亡者アル時ハ其ノ坪内ニ洩レナク通知シ該家ニ集合各其ノ役割ヲ定ム。
 役割(床取 棺造 買物 親族其ノ他へ飛脚 賄 帳場) 以上ノ役ハ廻リ番ニナスモノトス。
 講中トイヒテ葬式ノ場合ノ組合組織ナル 講中規約ハ部落ニヨリ多少ノ相違アルモ大体ニ於テ
 米一分全十錢又ハ二十錢 以上ヲ持テ出シ二日ニ亘リテコレヲ食事ス。該家ニテハ當日清メト林シテ酒ニ升ヲ講中ノ者ニ差シ出ス定メタル引物ハ出サヌガ本末ナド近氣稍 規定乱レ多少ノ引物ヲナス。









紋章分布ノ大勢ヲ示セバ次ノ如シ

松皮菱



藤目松皮菱



沿革
上澤一家ノ紋章ハ元ニツバデアツケガ何トナク格好ガ悪イトイツテ明
治初年頃ヨリミンバニ換ヘ始メ、現在デハ全部ニツバニアツテシマ
クノデアルトイフ。
蛇目藤松皮菱ハ元丸ニ松皮菱デアツケ中ニ松皮菱ヲ入テ蛇目藤松皮菱トシタノ
デアルトイフ。
先祖ガ藤原氏デアルトイフ



